平安京左京北辺三坊六町
内膳町遺跡

2014年

古代文化調査会

平安京左京北辺三坊六町
内膳町遺跡

2014年

古代文化調査会

西区　大名屋敷関連遺構出土金箔瓦（2/3）

例　言

1．本書は、古代文化調査会が京都市上京区上長者町通烏丸西入元浄花院町581においてマンション建設に伴い実施した平安京左京北辺三坊六町、内膳町遺跡（12H599）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は三菱地所レジデンス株式会社より委託を受けた古代文化調査会の上村憲章が担当した。

3．調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課の指導を受けた。

4．本書の編集・執筆は上村がおこなった。

5．図面及び遺構・遺物の整理、遺構の製図は上村がおこない、遺物の実測・製図は板谷桃代・水谷明子がおこなった。

6．本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系Ⅵによる。記載した数値はm単位で、水準はT.P.（東京湾平均海面高度）である。

7．本書で使用した地図は、国土地理院発行の25,000分の1（京都東南部）、京都市都市計画局発行の2,500分の1の地図（聚楽廻・御所）を調整し、使用した。

8．土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。

9．遺物番号は実測図・写真ともに共通している。

10．発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

家原圭太　伊島隆文　臼井亮介　宇野隆志　馬瀬智光　奥井智子　白石和史
杉本有紀典　鈴木久史　中島大輔　中務繁保　西森正晃　長谷川行孝　深沢貴一
堀　大輔　宮原健吾
（株）明輝建設　（株）大高建設　三菱地所レジデンス（株）
（公財）京都市埋蔵文化財研究所　（有）京都編集工房

本　文　目　次

平安京左京北辺三坊六町・内膳町遺跡

Ⅰ　調査の経緯……1

Ⅱ　調査の経過……1

Ⅲ　遺　　構……4

Ⅳ　遺　　物……8

Ⅴ　小　　結……16

図　版　目　次

巻頭図版　　西区　大名屋敷関連遺構出土金箔瓦

図版1　遺跡　第1面実測図

図版2　遺跡　第2面実測図

図版3　遺跡　第3面実測図

図版4　遺跡　第4面実測図

図版5　遺跡　第5面実測図

図版6　遺跡　西～東区　北壁実測図

図版7　遺跡　東区　東壁実測図

図版8　遺跡　西区　東壁実測図・東区　北壁実測図

図版9　遺跡　1　西区、全景・江戸時代前期以降（東から）

　　2　西区、全景・桃山時代～江戸前期（東から）

図版10　遺跡　1　西区、全景・平安時代～中世（東から）

　　2　西区、全景・平安時代（東から）

図版11　遺跡　1　西区、全景・平安時代前期（東から）

　　2　東区、全景・桃山時代～江戸時代（南東から）

図版12　遺跡　1　東区、全景・平安時代～中世（南東から）

　　2　東区、全景・平安時代（南東から）

図版13　遺跡　1　東区、全景・平安時代前期（南東から）

2　東区、溝 155 断面（斜行溝）（東から）
3　西区、溝 155（斜行溝）（北東から）
4　西区、柱穴 110（南から）
5　東区、土壙 160（南東から）
図版 14　遺物　溝 155・池 285・柱穴 122・柱穴 110 出土遺物
図版 15　遺物　土壙 275・土壙 261・土壙 57・土壙 104 出土遺物
図版 16　遺物　土壙 35 出土遺物
図版 17　遺物　土壙 35・土壙 32・土壙 243 出土遺物
図版 18　遺物　土壙 243・土壙 183・池 285・柱穴 110 出土遺物
図版 19　遺物　土壙 35・井戸 28・土壙 20 出土遺物
図版 20　遺物　土壙 35・精査中出土遺物
図版 21　遺物　土壙 35・井戸 6 ・土壙 20 出土遺物
図版 22　遺物　土壙 35・土壙 19 出土遺物
図版 23　遺物　土壙 35・井戸 6 ・土壙 1 ・井戸 16・土壙 26 出土遺物
図版 24　遺物　土壙 35・井戸 13 出土遺物
図版 25　遺物　土壙 35・井戸 6 ・井戸 15・土壙 20・土壙 4 出土遺物
図版 26　遺物　土壙 35・攪壙・土壙 4 ・井戸 16・土壙 19・土壙 8 ・精査中出土遺物
図版 27　遺物　土壙 35・土壙 20・井戸 29・井戸 6 ・井戸 28・精査中出土遺物
図版 28　遺物　土壙 35 出土遺物
図版 29　遺物　土壙 35・精査中出土遺物
図版 30　遺物　土壙 35・精査中出土遺物
図版 31　遺物　土壙 35 出土遺物
図版 32　遺物　土壙 35 出土遺物

挿　図　目　次

図 1　調査地点位置図……1
図 2　調査地位置図……2
図 3　平安京条坊と調査地位地図……2
図 4　四行八門と調査位置関係図……2
図 5　溝 155 セクション実測図……4
図 6　柱穴 122 実測図……5
図 7　柱穴 110 実測図……5
図 8　土壙 275 実測図……5

図9　土 壙 104 断 面 実 測 図 …… 6
図10　井戸 21 実測図 …… 6
図11　土壙 22 実測図 …… 7
図12　土壙160実測図 …… 7
図13　溝155出土土器実測図 …… 8
図14　池285出土土器実測図 …… 8
図15　柱穴122出土土器実測図 …… 8
図16　柱穴110出土土器実測図 …… 8
図17　土壙275出土土器実測図 …… 9
図18　土壙261出土土器実測図 …… 9
図19　土壙 57 出土土器実測図 …… 9
図20　土壙104出土土器実測図 …… 9
図21　土壙 35 出土土器実測図 …… 10
図22　土壙 35 出土土器実測図 …… 11
図23　土壙 32 出土土器実測図 …… 12
図24　土壙243出土土器実測図 …… 12
図25　土壙183出土土器実測図 …… 12
図26　出土瓦写真・断面実測図 …… 13
図27　3－D精査中出土丸鞆実測図 …… 14
図28　3－D精査中出土丸鞆写真 …… 14
図29　土壙 57 出土石製品温石実測図 …… 14
図30　土壙 57 出土石製品温石写真 …… 14

表　目　次

表1　遺物概要表 …… 15

平安京左京北辺三坊六町
内膳町遺跡

Ⅰ 調査の経緯

調査地は京都市上京区上長者町通烏丸西入元浄花院町 581 で、平安京左京北辺三坊六町、内膳町遺跡に該当する。平安時代の六町は内膳司の厨町、すなわち内膳町の存在した場所である。また敷地の南端には土御門大路の北側施設（築地、犬走り、路面の一部）が推定されている。また縄文晩期～弥生時代の内膳町遺跡にもあたっている。

当地に三菱地所レジデンス株式会社によるマンション建設の計画がなされ、工事に先立ち京都市文化財保護課が試掘調査を実施した。その結果、平安時代から江戸時代の遺構が遺存していることが判明し、また桃山期の金箔瓦も出土し発掘調査の必要性が考慮されるに至った。京都市の指導の下、施主との協議の結果、当調査会が発掘調査をおこなうこととなった。

Ⅱ 調査の経過

平安時代中期にはすでにこの内膳町は廃絶し、受領階級の屋敷地となっていたらしい。この町

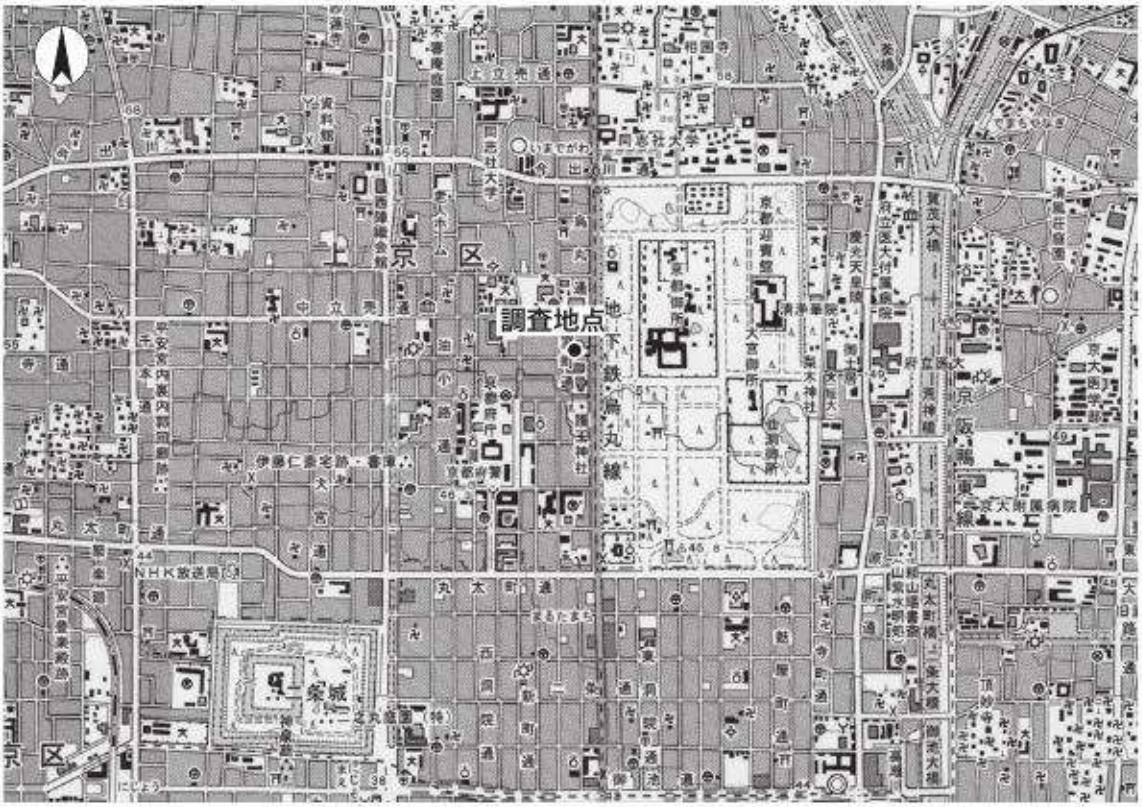


図 1　調査地点位置図(1/25,000)

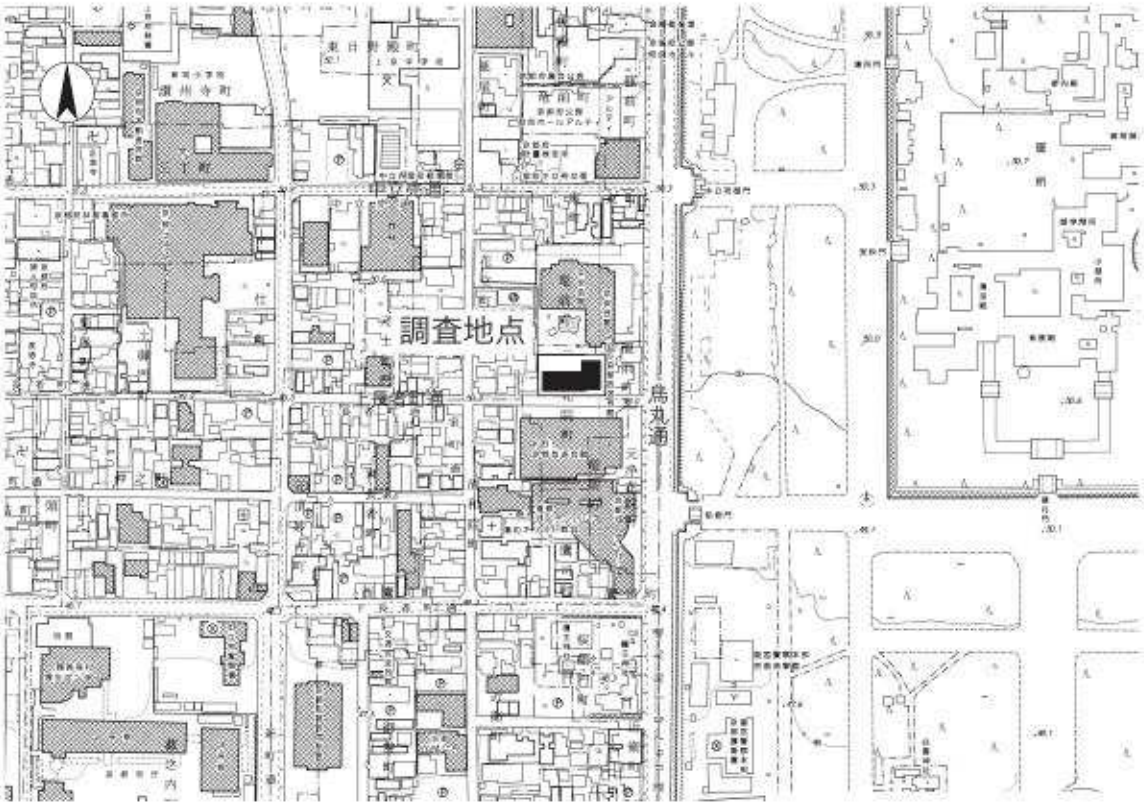


図 2　調査地位置図(1/5,000)

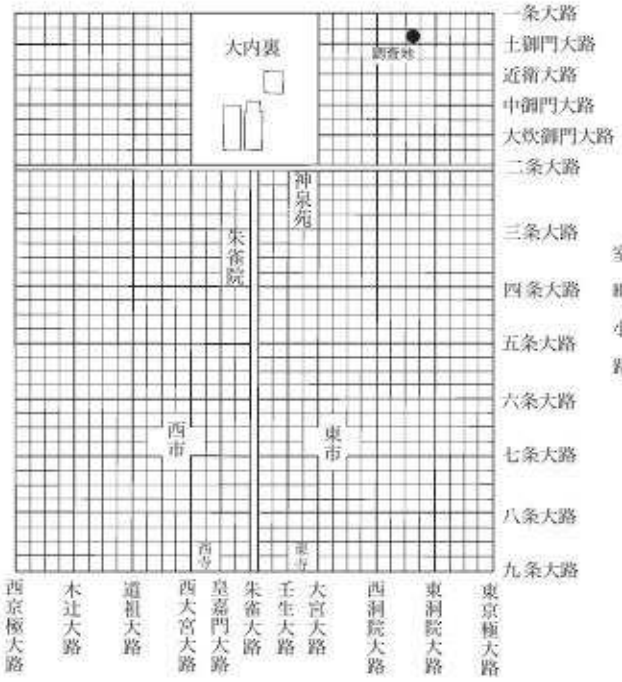


図 3　平安京条坊と調査地位置図

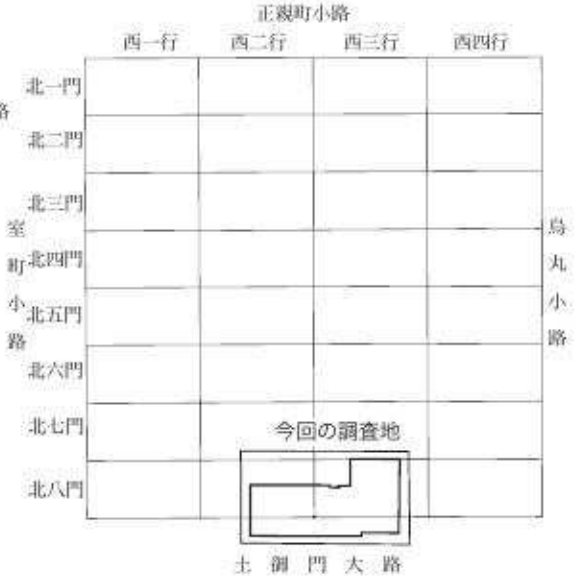


図 4　四行八門と調査位置関係図(1/2,000)

には富裕な受領で摂関家の家司(けいし)でもあった前安芸守藤原資良(すけよし)の邸宅があった。資良の祖父藤原永頼(ながより)もまた富貴な受領であり、その義父と推定される藤原守義(もりよし)は内膳司を所管する宮内卿であった。このような関係から内膳町の私領化が始まったとも推測されている。[註1]

中世に「清浄華院(しょうじょうけいん)」が、観応二年（1351年）ころにはここへ移転し、さらに天正年間（1573～1592年）、豊臣秀吉の京都都市改造計画にともない現在地（京都御苑の東側・京都市上京区寺町通広小路）に移転する。[註2]

その後は聚楽第の成立（天正15［1587］年）に伴い、大名の邸宅が営まれた時代があった。聚楽第の破却（文禄4［1595］年）に伴い秀吉や大名らは伏見へと移動し、また町家の風情がもどることとなる。[註3]

昭和53年から北側でホテル建設に伴う調査が京都府教育委員会によって行われており金箔瓦や、平安時代～近世に至る遺構遺物が見つかっている。[註4]

京都市文化財保護課の指導のもと、2013年6月17日調査を開始し、同年10月28日に調査を完了した。調査はY=22,016mライン付近で西と東に分け、先に西側の調査を先行して行った。調査面積は東西合わせて614㎡となった。

また10月17日に調査成果の記者発表を行い、同月19日には現場説明会を実施した。

平面直角座標系Ⅵによる基準点測量データを使用し、4mメッシュのグリッドを設定し、遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。現場の基本実測図は20分の1で作成した。

平安京左京北辺三坊六町の築地四隅の座標値（新測地系）はそれぞれ以下の通りである。[註5]

北西	X=－108,143.17m	北東	X=－108,142.68m
	Y=－22,082.97m		Y=－21,963.59m
南西	X=－108,262.56m	南東	X=－108,262.07m
	Y=－22,082.49m		Y=－21,963.10m

Ⅲ 遺　構

第１面～第５面までの調査を行った。第５面では平安京の造営に関わると思われる北東から南西方向に延びる斜行する溝を確認。９世紀前半に埋まっている。第４面ではこの溝が埋められ土御門大路が施工されている状況が確認でき、また調査区北東部分に10世紀くらいからの池状の堆積を確認している。この堆積の最上面には13世紀中頃の土師器皿が集中して出土する部分が数ヶ所認められ、池が完全に埋まったのは鎌倉時代の中頃と考えている。第３面として調査している。第２面は大名屋敷の成立している時期であり、土壙35からは金箔瓦が多数出土している。第１面は大名屋敷の後、江戸時代のこの地域にあった商家の遺構群であると考えている。石組の室や井戸などもある。

現表土は海抜49.8～50.2mを測り東側がやや高い状態であった。図示した西～東区北壁第94層は自然堆積層で標高は47.9m程である。西～東区北壁第76層は近世初頭の整地土でおそらく秀吉の大名屋敷の整備の時に入れられたものと考えている。厚さは0.8m前後を図る。大名屋敷に伴う作庭で池が作られ、西～東区北壁47～65層はその埋土と考えられる。調査では土壙35としてあつかった。池の深さは1.4m程度である。

尚、遺構番号１～155は西区の調査、それ以降355までは東区の調査で使用した番号である。155については東西共通の遺構のため東区、西区で共通の番号となっている。以下検出した主な遺構についてその概要を記す。

平安時代前期（８世紀末～９世紀）

溝155・80、土壙304・338、柱穴143・342などがある。

溝155（図版５・11の１・13の１～３、図５）

溝は平安京の方位に沿ったものではなく北東方向から南西方向の方位をもつ。幅4.5～5mほどあり、深さは0.45～0.5mで底部の標高は深いところで46.9m、浅いところで47.2mと一定ではない。９世紀初頭の土器が出土している。調査区の南部で検出している土御門大路はこの溝が埋められてから整備されている状況が確認できた。

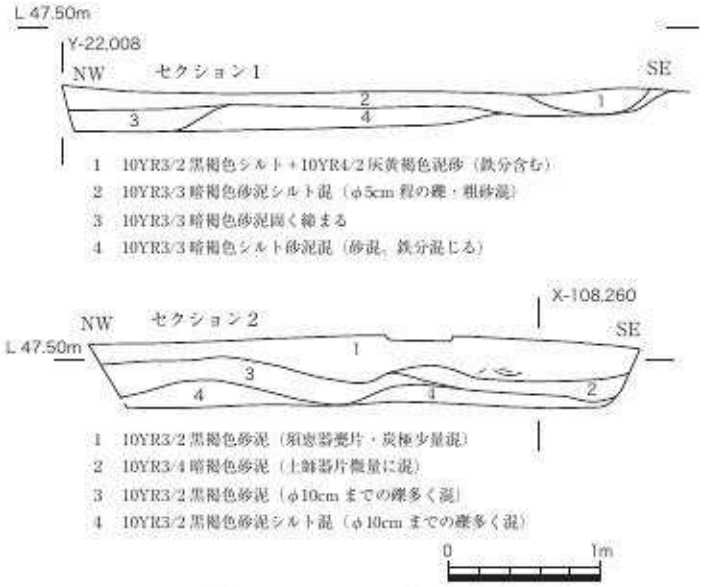


図５　溝155セクション実測図（1/50）

平安時代中期～後期

池285（図版４・12の１と２）

10世紀になって池が造られる。

徐々に埋まってゆき、完全に埋まるのは鎌倉時代の中頃である。埋土の上層部では土師器皿が密集する部分が数ヶ所で認められた。

柱穴 122（図版３・10の１、図６）

西区の７－Ｅ区で検出、径0.33～0.44m、深さ0.4mほどを測る。近江産の緑釉陶器椀の体部～底部の破片が出土している。池があった時期に西側では建物が存在した可能性を示している。

他に土壙84・111、柱穴113・118などがある。

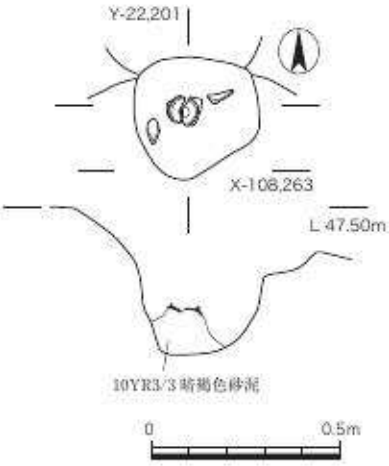


図６　柱穴122実測図（1/20）

平安時代後期

土壙55・75・81・124・68・275、柱穴110・61・97などがある。

柱穴 110（図版３・10の１・13の４、図７）

柱穴としたが土器埋納遺構である。西区のＤ～Ｅ－７区で検出している。一町の南辺、かつ一町の中心部分に近く地鎮遺構と推測できる。土師器皿Ａが６枚、同皿Ｎが６枚と須恵器の壺が出土している。須恵器壺の中にはガラス製の小玉２個とガラスの極小片13粒が収められていた。

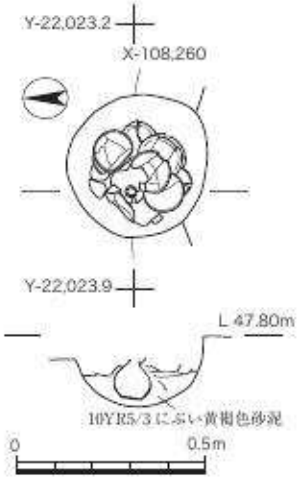


図７　柱穴110実測図（1/20）

土壙 275（図版３・12の１、図８）

東区の南東部、Ｄ～Ｅ－２～３区で検出した不整形な遺構で図８は同遺構の西辺部分で出土した土師器皿と同甕の出土状況である。

平安時代～中世　土御門大路関連遺構

土御門大路路面（図版３・4）

調査区南部で路面と思われる礫敷きを検出した。西部や東部では近世の遺構に削られており明瞭ではない。一番残存状況がよかった西区の東部では４面の道路敷きを確認している。確認できる一番古い面は９世紀代で、最上面は中世後半の土層が被る。

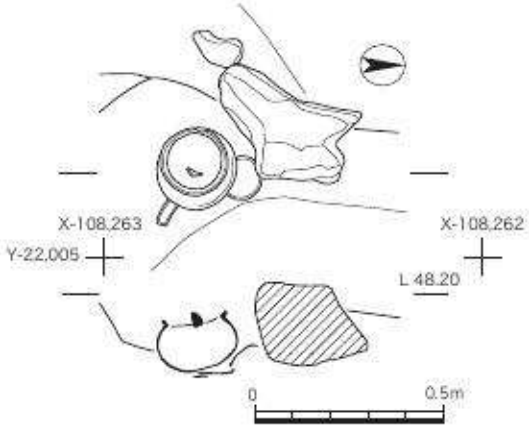


図８　土壙275実測図（1/20）

土御門大路北側側溝（図版３・4）

溝80（図版3）、溝80－４（図版4）としたものは土御門大路北側溝の可能性が高い。溝80は平安時代後期、溝80－４は９世紀代の遺物が出土している。条坊復元モデルよりも約1.5mほど北へずれて検出された。

鎌倉時代（13 世紀）

土壙 254 ～ 261 などがある

土壙 261（図版 3・12 の 1）

2 ～ 3 - C 区で検出。成立面の標高は 48.4m ほどで深さは 0.42m を測る。2.5Y4/4 オリーブ褐色泥砂が堆積し平安京Ⅵ期中～新[注6]くらいの土師器皿が多量に入れられていた。土壙 254 ～ 260 も同様に土師器皿の集中した遺構で、池の埋土の最上層の凹みに土器が入れられたように見える。

図 9　土壙 104 断面実測図（1/50）

鎌倉時代～室町時代前期（13 ～ 14 世紀）

土壙 57（図版 3 ・10 の 1 ）

6 - E 区で検出。東西 1.6m、南北 1.3m 以上を測り、深さ 0.7m。西区東壁実測図の 17 ～ 19 層がその堆積土となる。平安京Ⅶ期中くらいの土器が出土する。清浄華院（しょうじょうけいん）が移転する直前の遺構と見ている。

室町時代（14 世紀中頃～ 16 世紀中頃）

土壙 104（図版 3・10 の 1 、図 9 ）

7 ～ 8 - D ～ E 区で検出。南北 4.0m、東西約 4.5m を測り、深さは検出面から 0.28m である。平安京Ⅷ期新の土師器が含まれており 15 世紀前半くらいの遺構と考えている。

他に室町時代と思われる遺構には、土壙 45・104、柱穴 138・231・235 などがある。

桃山時代～江戸時代前期（16 世紀末～ 17 世紀）

土壙 35（図版 2 ・ 9 の 2 ）

西区の西部で検出。瓦片が多量に投棄されておりその中に金箔が施された痕跡のあるものも多数確認された。東限は Y-22,027m 付近に肩口があり、北、西、南については調査区外にある。深さは検出面から 1.5m を測る。西～東区北壁実測図の第 42 ～ 65 層がその堆積土に当たる。瓦は大名屋敷時代のものであると考えており、豊臣秀吉の聚楽第整備の一連のものであると考えられる。この土壙も大名屋敷に付随する庭園の池であった可能性もある。

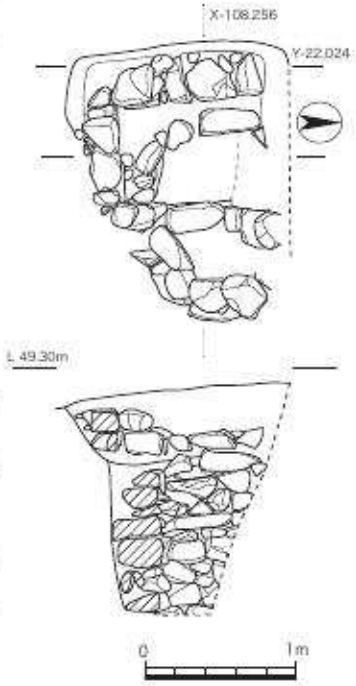


図 10　井戸 21 実測図（1/50）

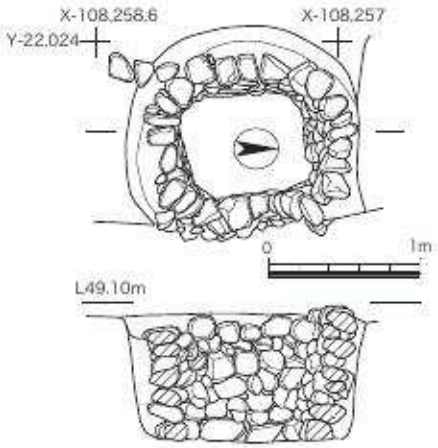


図 11　土壙 22 実測図（1/50）

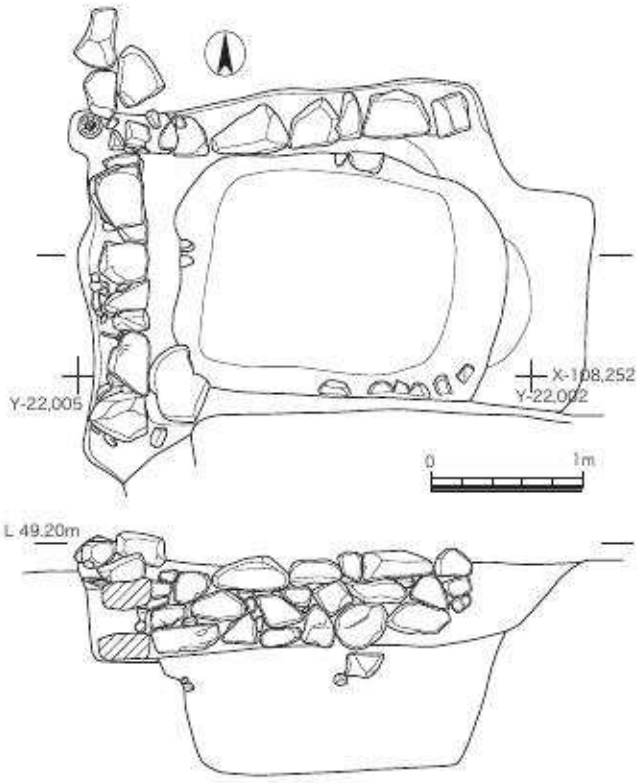


図 12　土壙 160 実測図（1/50）

大名屋敷の破却に伴い瓦の処理穴とされたものである。

他にこの時期の遺構としては土壙 32・38・183・243 などがある。

江戸時代（17 世紀～ 19 世紀中頃）

井戸 21（図版１・９の１、図 10）

西区 7－C ～ D 区、調査区北壁際で検出。壁に法をつけているため完掘調査は出来なかった。下部に円形の石組があり上部は方形の石組がある。本来はそれぞれ別の遺構である可能性が高い。17 世紀後半～ 18 世紀前葉の遺物が出土している。

土壙 22（図版１・９の１、図 11）

西区 7－D 区で検出。東西内径 0.95m、南北内径 0.7m の隅丸方形の平面形の石組を有する。深さは検出面から 0.85m を測る。7.5YR3/1 黒褐色砂泥が堆積し、炭、焼土が多く混じっている。17 世紀後半～ 18 世紀代の遺物が出土している。

土壙 160（図版１・11 の２・13 の５、図 12）

東区２～３－B ～ C 区で検出。平面形は東西に長い長方形で、西側、北側には３段程度の石を組む。石組基底部からさらに 0.8m ほど掘りくぼめており、全体では深さ 1.6m 程になる。堆積土は 10YR3/2 黒褐色泥砂で炭が多量に混じる。焼土、漆喰片も入っている。江戸時代後期の遺物が出土している。

Ⅳ 遺　物

出土遺物は整理箱にして209箱ある。なお、時代区分は平安京の土器編年[注7]をもとにおこなう。

土器・陶磁器類

溝155出土土器（図版14、図13）

土師器甕（1）、緑釉陶器椀（2）、須恵器杯B蓋（3）、同杯B身（4）、同甕（5）が出土している。平安京Ⅰ期中～新段階の遺物群と見ている。

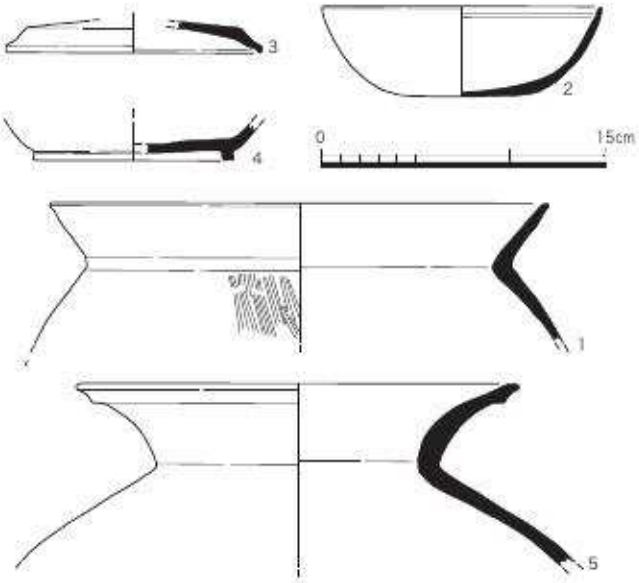


図13　溝155出土土器実測図（1/4）

池285出土土器（図版14、図14）

土師器杯（6～8）、同皿（9）、緑釉陶器椀（10）。灰釉陶器椀（11）が出土。平安京Ⅲ期でも前半に比定できるものと見ている。

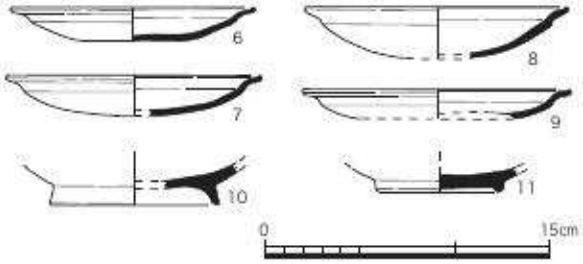


図14　池285出土土器実測図（1/4）

柱穴122出土土器（図版14、図15）

緑釉陶器椀（12）が出土。高台の特徴から近江産の緑釉陶器と見られる。平安京Ⅲ期の土器である。

柱穴110出土土器（図版14、図16）

土師器皿Ac（13～18）、同皿N（19～24）、須恵器壺（25）が出土。平安京Ⅳ期中

図15　柱穴122出土土器実測図（1/4）

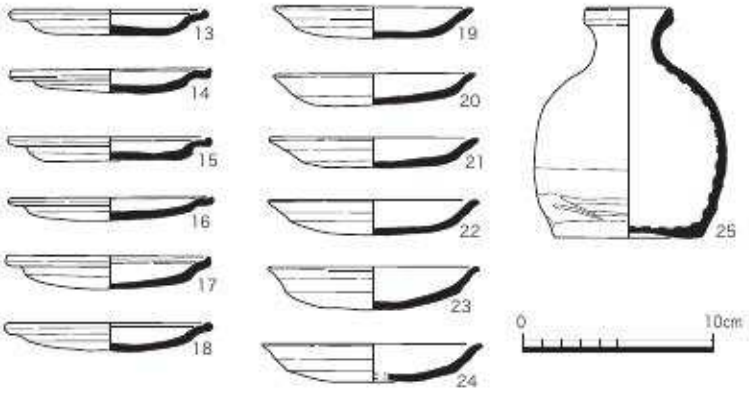


図16　柱穴110出土土器実測図（1/4）

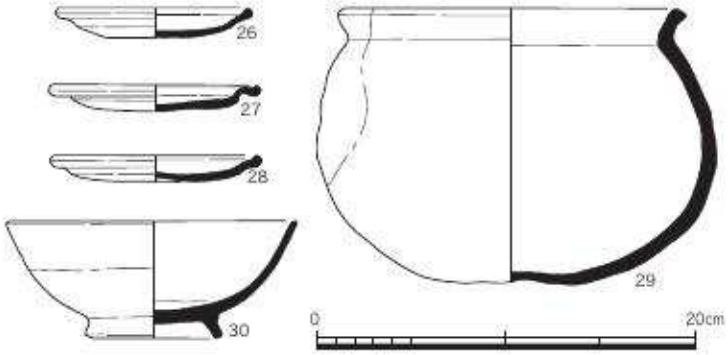


図 17　土壙 275 出土土器実測図（1/4）

に比定できる土器群と見ている。

土壙 275 出土土器（図版 15、図 17）

土師器皿 Ac（26 ～ 28）、同甕（29）、灰釉陶器椀（30）が出土。平安京Ⅳ期中～新に比定できる土器群と思われる。

土壙 261 出土土器（図版 15、図 18）

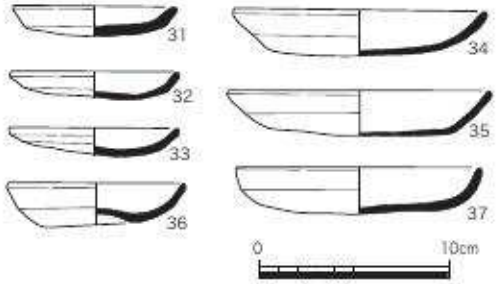


図 18　土壙 261 出土土器実測図（1/4）

土師器皿 N 小（31 ～ 33）、同皿 N 大（34・35）、同皿 N' 小（36）、同皿 N' 大（37）、が出土する。平安京Ⅵ期中～新に比定できる土器群である。13 世紀前葉から中頃のものと見ている。

土壙 57 出土土器（図版 15、図 19）

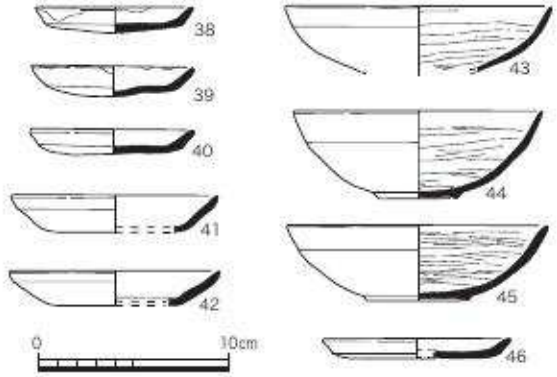


図 19　土壙 57 出土土器実測図（1/4）

土師器皿 N 小（38 ～ 40）、同皿 N 大（41・42）、瓦器椀（43 ～ 45）、瓦器皿（46）が出土。平安京Ⅶ期中、14 世紀前半代くらいの土器群と見ている。

土壙 104 出土土器（図版 15、図 20）

土師器皿 S（47）が出土。口径 12.4cm を測る。平安京Ⅷ期新、15 世紀前半に位置づけられる土器である。

土壙 35 出土土器（図版 16・17、図 21・22）

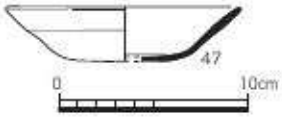


図 20　土壙 104 出土土器実測図（1/4）

土師器は皿 Nr（48・49）、土師器皿 Sb（50 ～ 52）、土師器皿 S（53 ～ 60）、塩壺身（61 ～ 63）が出土。土師器の小壺（64）（つぼつぼ）に鉛釉を施したものも出土している。美濃瀬戸系天目茶椀（65・66）、同志野皿（67）、同灰釉丸皿（68）、同灰釉皿（69）、同灰釉折り縁皿（70）、同灰釉折り縁菊皿（71 ～ 73）、同志野鉄絵皿（74・75）、同志野角向付（77）、同織部向付（76・78・79）、志野大皿（80）、唐津系の陶器として椀（81 ～ 83）、皿（84 ～ 86）、絵皿（87）、絵唐津向付（88・89）が出土している。他に焼締陶器として丹波産の擂鉢（90・91）、輸入磁器染付椀（92・93）がある。77 の側面のひとつには「桐」の文様が描かれている。これらの土器群は桃山時代から江戸時代前期のものと思われる。多量の金箔瓦も一緒に出土している。

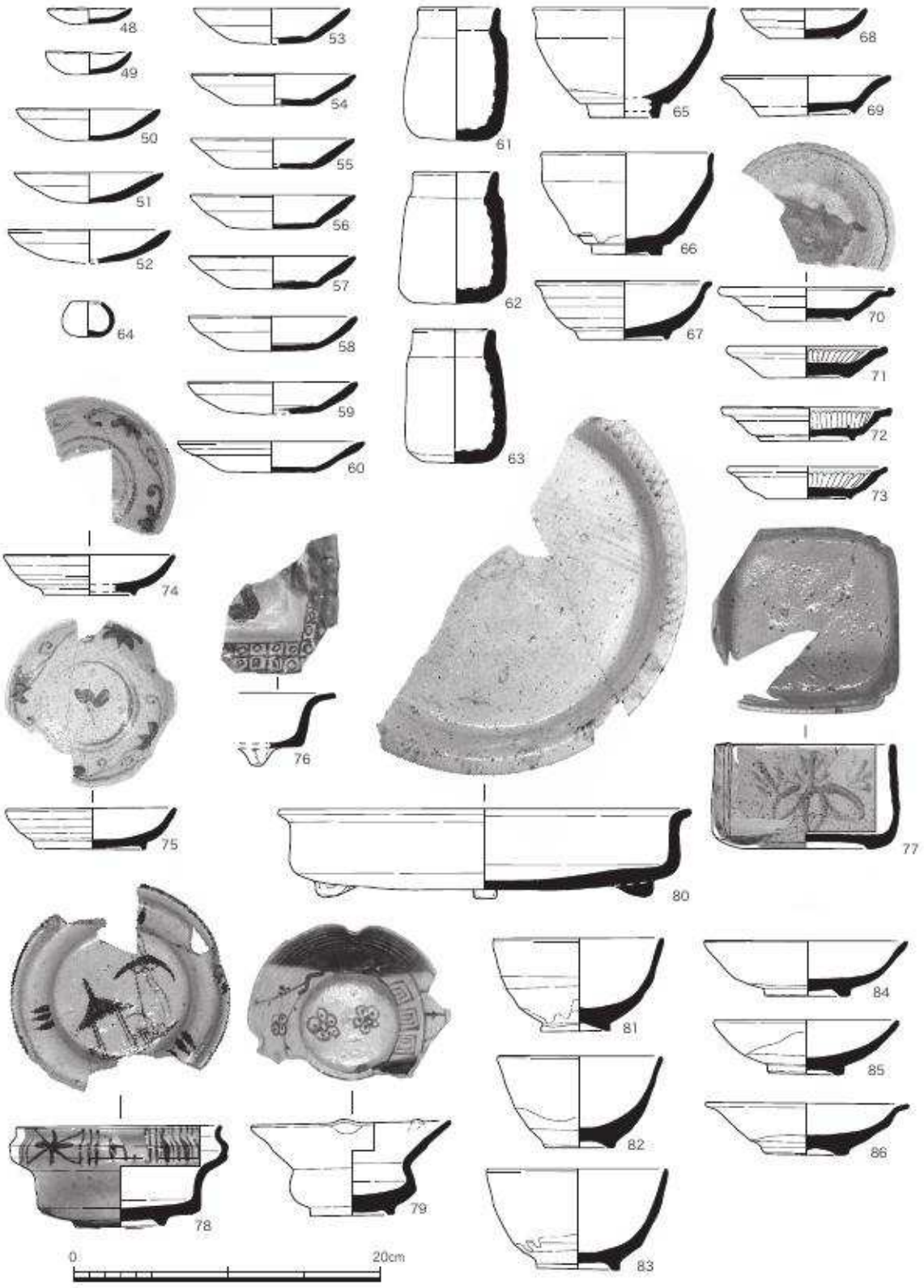


図 21　土壙 35 出土土器実測図（1/4）- 1

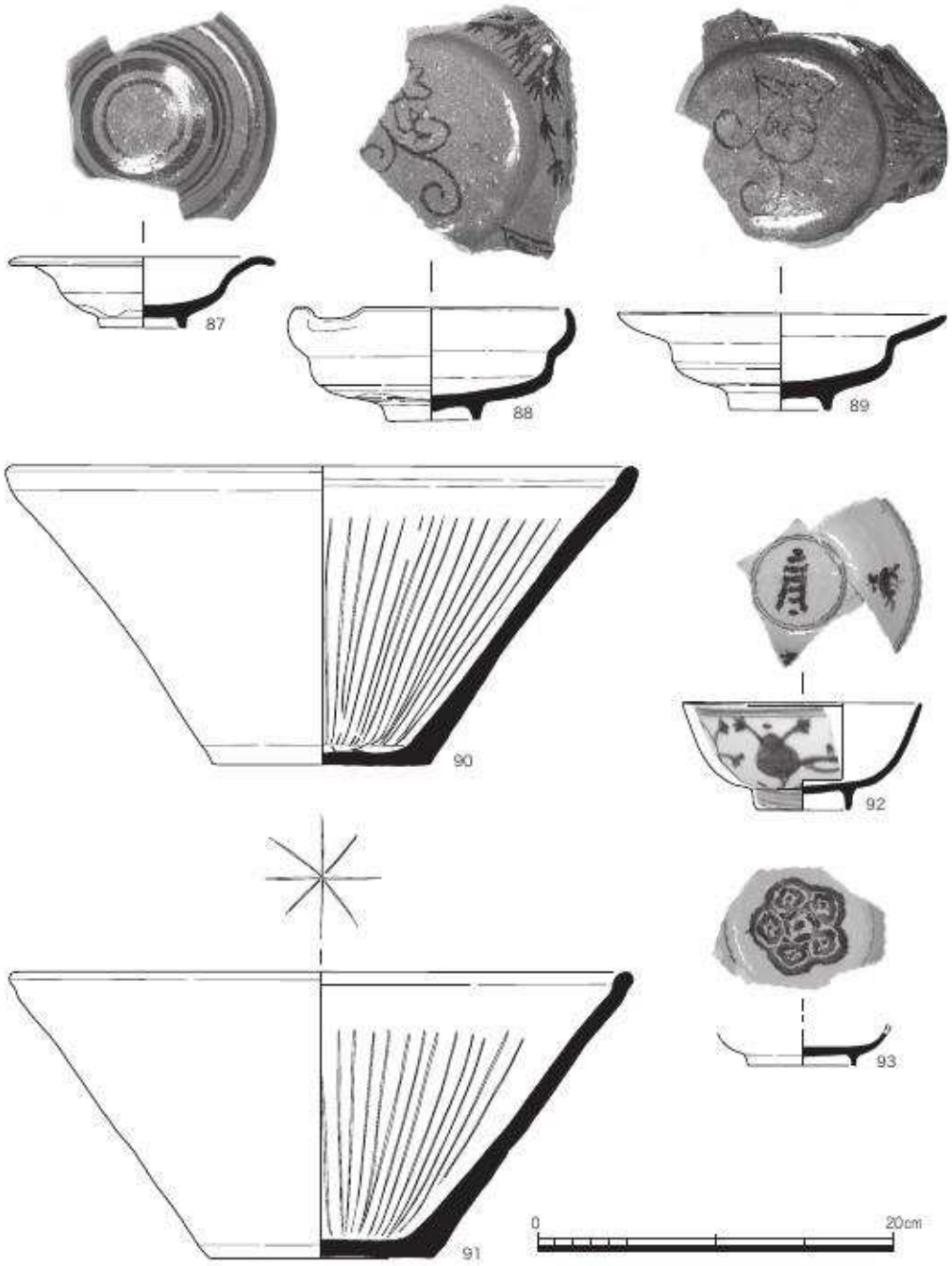


図 22　土壙 35 出土土器実測図（1/4）- 2

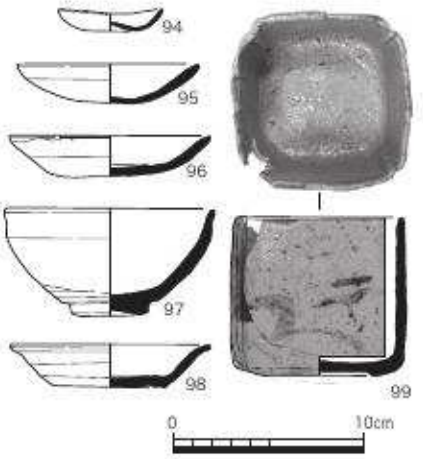


図 23　土壙 32 出土土器実測図（1/4）

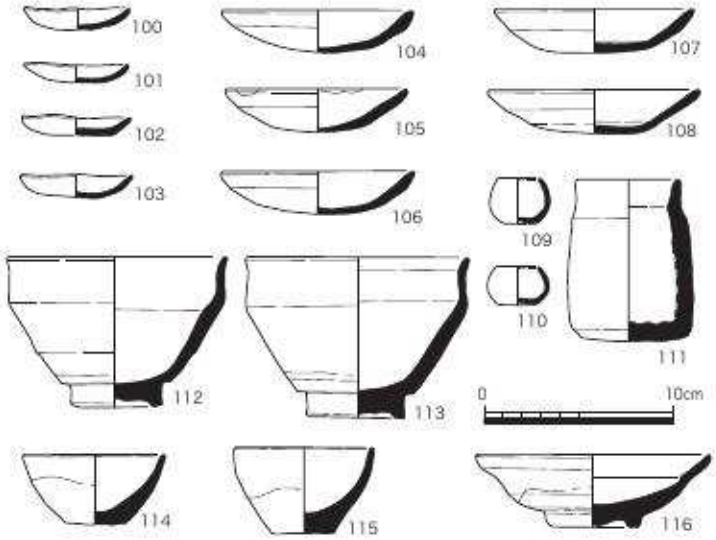


図 24　土壙 243 出土土器実測図（1/4）

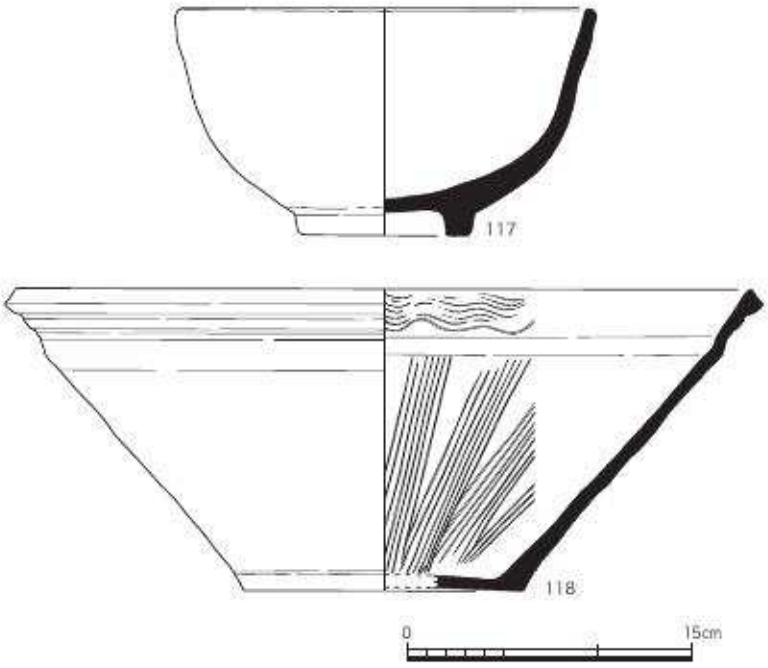


図 25　土壙 183 出土土器実測図（1/4）

土壙 32 出土土器（図版 17、図 23）

土師器皿 Nr（94）、同皿 Sb（95）、同皿 S（96）、美濃瀬戸系天目椀（97）、同灰釉皿（98）、同志野角向付（99）が出土している。桃山時代から江戸時代前期の土器群と見ている。

土壙 243 出土土器（図版 17・18、図 24）

土師器皿 Nr（100 ～ 103）、同皿 Sb（104 ～ 106）、同皿 S（107・108）、小壺（109・110）、塩壺身（111）、美濃瀬戸系白天目茶椀（112）、同天目茶椀（113）、唐津系小椀（114・115）、同皿（116）

等が出土している。これらも桃山時代から江戸時代前期の土器群と考えている。

土壙 183 出土土器（図版 18、図 25）

唐津系大鉢（117）、焼締陶器丹波産擂鉢（118）が出土。江戸時代前半代（17 世紀中頃～後半）の土器群と考えている。

瓦類（図版 19 ～ 32、図 26）

大名屋敷関係遺構出土軒先瓦を図版 19 ～ 32 に示した（126 ～ 383）。

桐文軒丸瓦（126 ～ 135）

橘文軒丸瓦（136・141）

葵文軒丸瓦（137）

木瓜文軒丸瓦（138 ～ 140・142）

巴文軒丸瓦（143 ～ 230）

桐文軒平瓦（231 ～ 245）

唐草文軒平瓦（246 ～ 347）

波文軒平瓦（348・349）

飾瓦（350 ～ 383）

唐草文軒平瓦（119）

土壙 289 より出土。

唐草文軒平瓦（120）

土壙 37 より出土。

唐草文軒平瓦（121）

土壙 236 より出土。

唐草文軒平瓦（122）

土壙 251 より出土。

唐草文軒平瓦（123）

土壙 250 より出土。

巴文軒丸瓦（124）

池 285 より出土。

巴文軒丸瓦（125）

土壙 160 掘形より出土。江戸時代のものである。

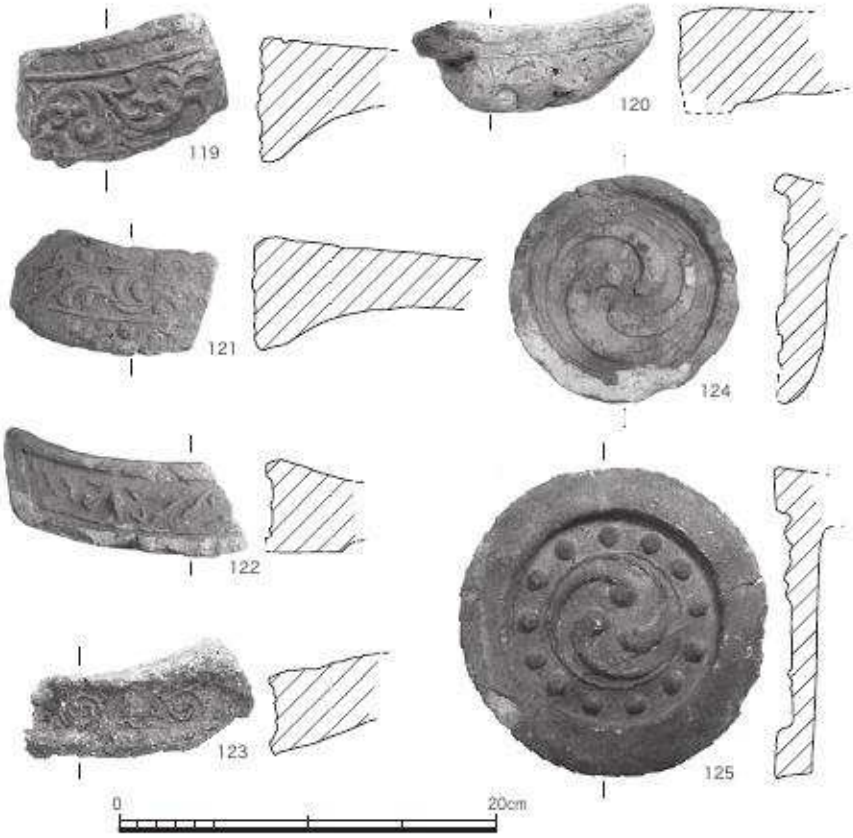


図 26　出土瓦写真・断面実測図（1/4）

石製品（図 27 ～ 30）

丸鞆（384）

東区の 3 － D の精査中に出土。位置関係からすると池 258 の埋土に含まれていたものと推測できる。表、側面は丁寧に磨かれている。

温石（385）

滑石製で羽釜の底部を作り替えたものと思われる。土壙 57 より出土。

金属製品（図版 18）

銭貨（386）

池 285 の埋土より富寿神宝が出土している。縦 22.91mm、横 22.97mm、厚さは 1.34mm を測る。

ガラス製品（図版 18）

小玉（387・388）

二点とも柱穴 110 より出土した須恵器壺（25）に収められていたもので、387 は径 1.53mm ～ 1.58mm、厚さ 0.47mm、388 は径 1.61mm ～ 1.71mm、厚さ 0.57mm を測る。径 0.6mm 程の棒に溶けたガラスを巻き付けて作っている。この他に 0.5mm 以下のガラスの砕片が 13 粒ほど認められた。

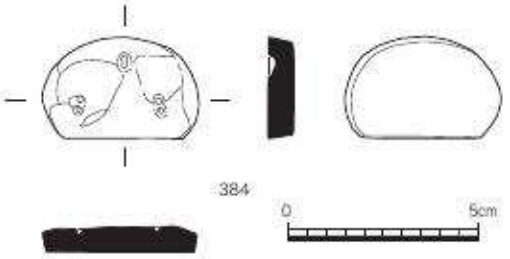


図 27　3 － D 区精査中出土丸鞆実測図（1/2）

図 28　3 － D 区精査中出土
丸鞆写真（1/2）

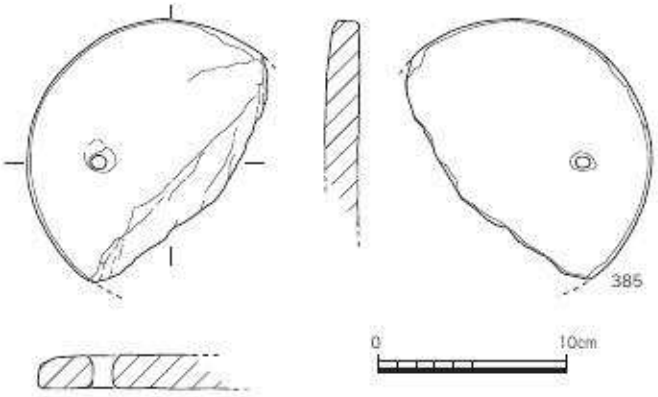


図 29　土壙 57 出土石製品温石実測図（1/4）

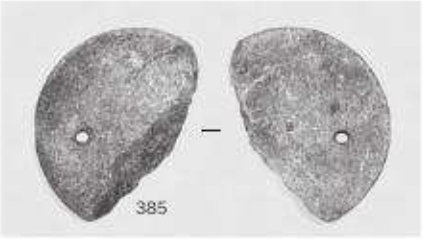


図 30　土壙 57 出土石製品温石写真（1/6）

時代	内容	コンテナ数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、須恵器、緑釉・灰釉陶器、瓦		土師器21点、須恵器4点、緑釉陶器3点、灰釉陶器2点、富寿神宝1点、ガラス小玉2点、瓦6点、丸鞆1点		
鎌倉時代	土師器		土師器7点		
鎌倉時代～室町時代	土師器、瓦器		土師器6点、瓦器4点　温石1点		
桃山時代～江戸時代前期	土師器、国産陶磁器、焼締陶器、瓦		土師器31点、国産陶磁器36点、輸入磁器2点、瓦258点		
江戸時代前期以降	国産陶磁器、瓦		国産陶磁器2点、瓦1点		
合計		231箱	388点（22箱：瓦15箱、土器7箱）	209箱	0箱

※　コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より22箱多くなっている。抽出は瓦15箱、土器7箱となっている。

表1　遺物概要表

V 小　結

今回の調査では縄文晩期～弥生時代の内膳町遺跡の様子は不鮮明であったが、平安京造営にかかわる様子の一端が明らかとなった。条坊遺構（土御門大路）に先行する北東から南西に斜行する溝と、それを廃絶し埋めた後に成立する土御門大路の一部と平安時代の池が見つかっている。また調査区西側ではこれとは別の桃山時代と考えられる池状の堆積があり、これを埋めるように瓦が投棄されておりその中に金箔瓦が含まれていた。

斜行溝には平安京初期の土器が含まれており、平安京施工当初に物資を運ぶ運河として利用されたものと考えられる。土御門大路は物資の搬入後に運河を埋めて作られたもので路面からも平安京初期の土器が出土しており、平安京造営の様子の一端を見ることが出来た。このような運河に近い例としては、藤原宮の先行条坊で、朱雀大路計画線道路の東側溝の東に接して掘られた宮、京造営のための運河遺構があげられる。[註8]

平安時代の池は10世紀くらいに成立している。この地が私領化されるとともに庭園が整備されたと見られ、鎌倉時代の前半には完全に埋まっている。

中世の遺構（柱穴や土壙）もある程度認められ、清浄華院関係の遺構と考えられる。桃山時代には聚楽第が整備されるとともに大名屋敷が設けられ、金箔の瓦を屋根に載せて威容をほこったものと思われる。当調査地で出土した「橘」文の主は五奉行の一人であった前田玄以（1539～1602）のものである可能性が高い。

註1　『平安京提要』総監修角田文衛　角川書店　1984年

註2　『国史大辞典』「清浄華院」吉川弘文館　1986年

註3　『史料京都の歴史7　上京区』「上京区概説」京都市　平凡社　1980年

註4　『平安京左京跡（内膳町）　昭和54年度発掘調査概要』平良泰久・奥村清一郎・伊野近富ほか「埋蔵文化財発掘調査概報（1983-3）所収　京都府教育委員会　昭和55年

註5　（公財）京都市埋蔵文化財研究所による平安京条坊復元モデル60の数値である。

註6　小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」『研究紀要第3号』（財）京都市埋蔵文化財研究所1996年。土師器の型式名称もこれに従った。

註7　註6に同じ。

註8　『飛鳥・藤原宮発掘調査概報8』奈良国立文化財研究所1978　「SD1901A」として報告されている。

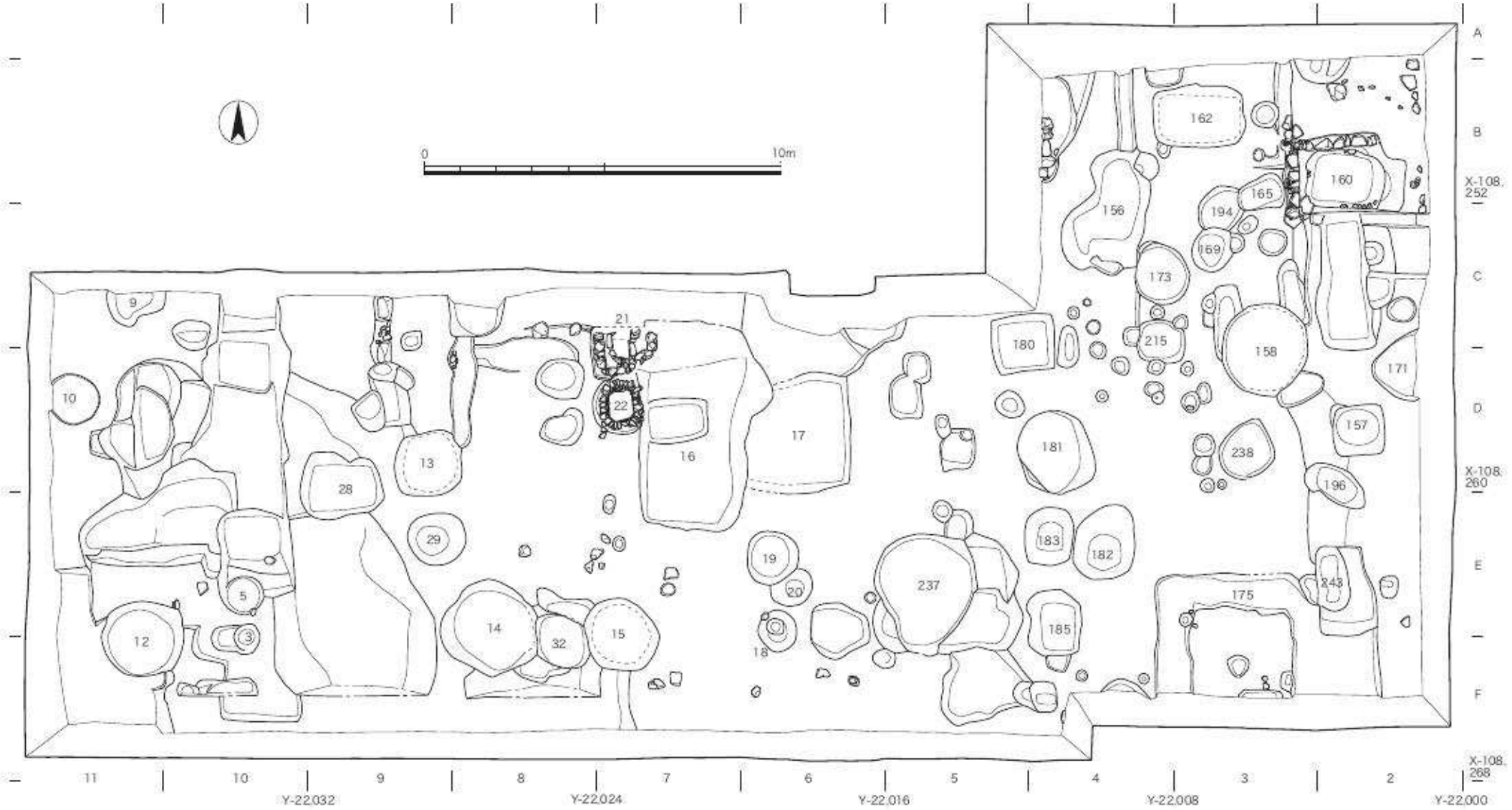
報告書抄録

ふりがな	へいあんきょうさきょうほくへんさんぼうろくちょう・ないぜんちょういせき
書名	平安京左京北辺三坊六町・内膳町遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	上村憲章
編集機関	古代文化調査会
所在地	〒658－0032　神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125－1404
発行年月日	2014年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょう 平安京左京 はくへんさんぼう 北辺三坊 ろくちょう・ないぜん 六町・内膳 ちょういせき 町遺跡	きょうとしかみぎょうく 京都市上京区 かみちょうじゃまちからすま 上長者町烏丸 にしいるもとじょうげいん 西入元浄花院 ちょう 町581	26100		35度 01分 26秒	135度 45分 31秒	2013.06.17 ～ 2013.10.28	614㎡	マンション 建設

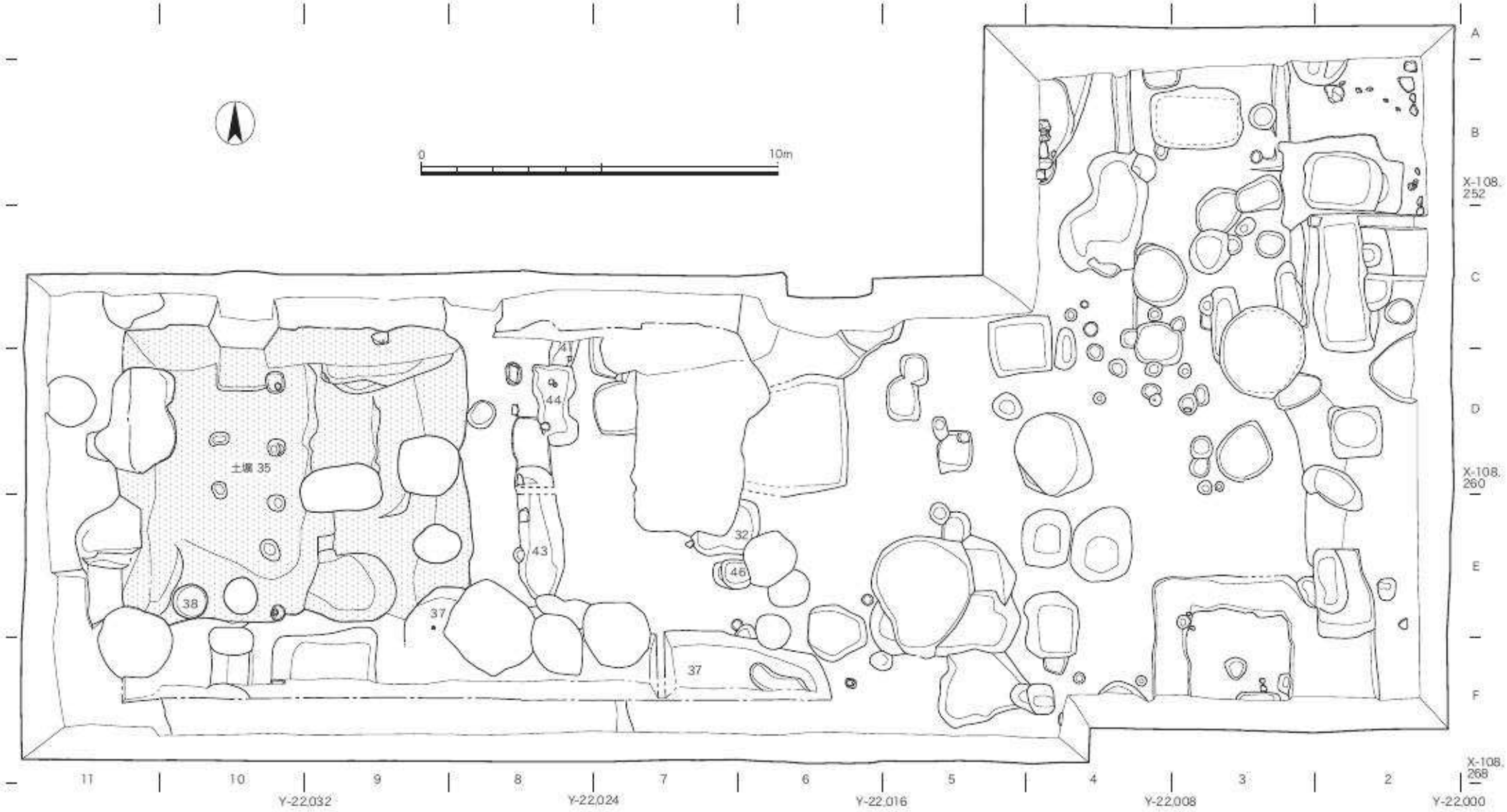
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京北辺三坊六町・内膳町遺跡	都城跡・散布地	弥生時代、平安時代～江戸時代	溝、柱穴、土壙、井戸、石組遺構	土師器皿・甕、須恵器杯・甕、灰釉陶器椀、緑釉陶器椀、瓦器椀・皿、焼締陶器擂鉢、国産陶磁器皿、輸入磁器椀・皿、瓦類（金箔瓦含む）	平安京造営時に使われたと見られる溝（運河）跡。平安時代から中世にかけての池状の堆積。桃山時代の大名屋敷に使われていた金箔瓦の出土。

図　　版

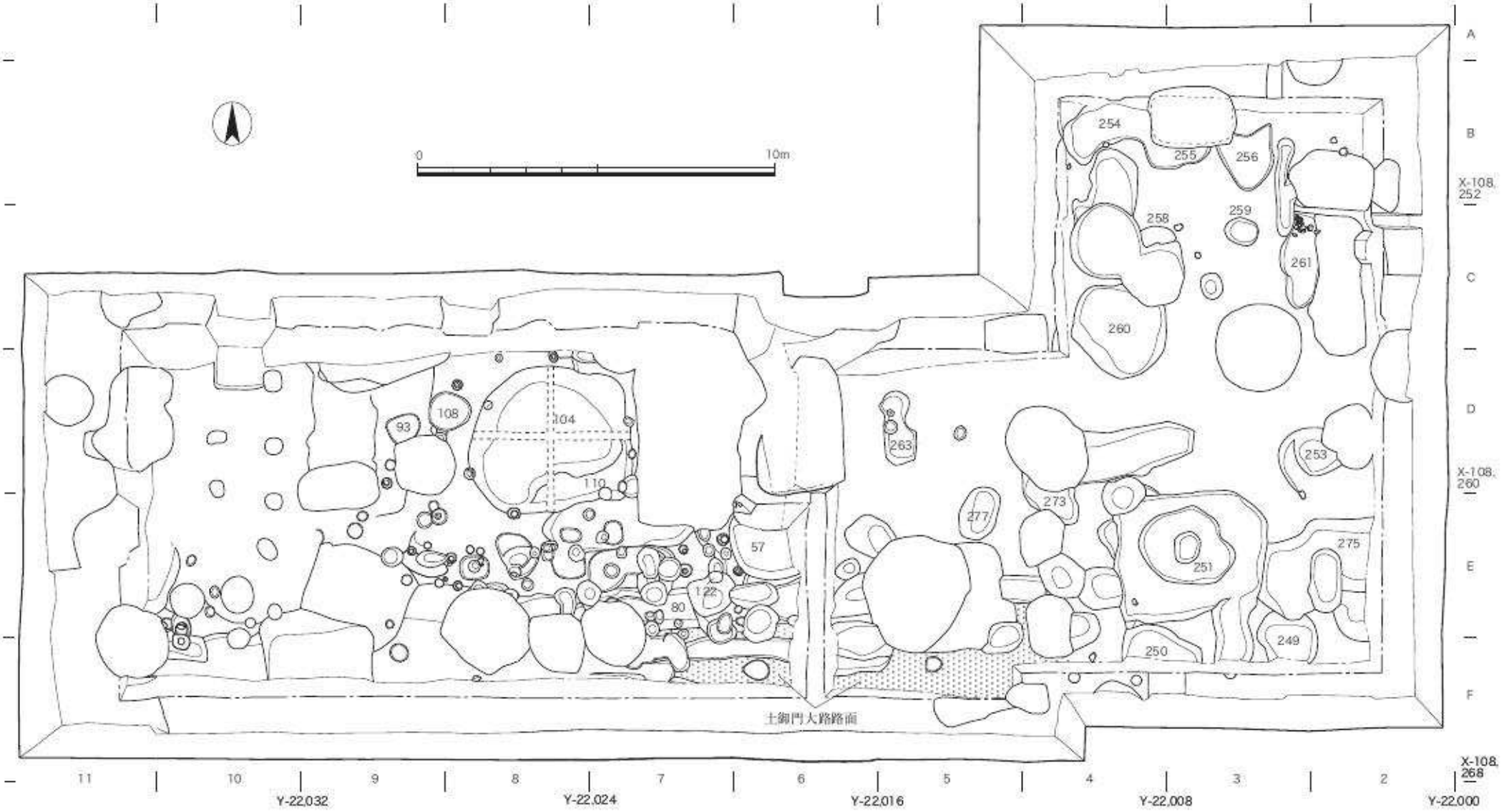


第１面実測図　(1/150)

図版１　遺構

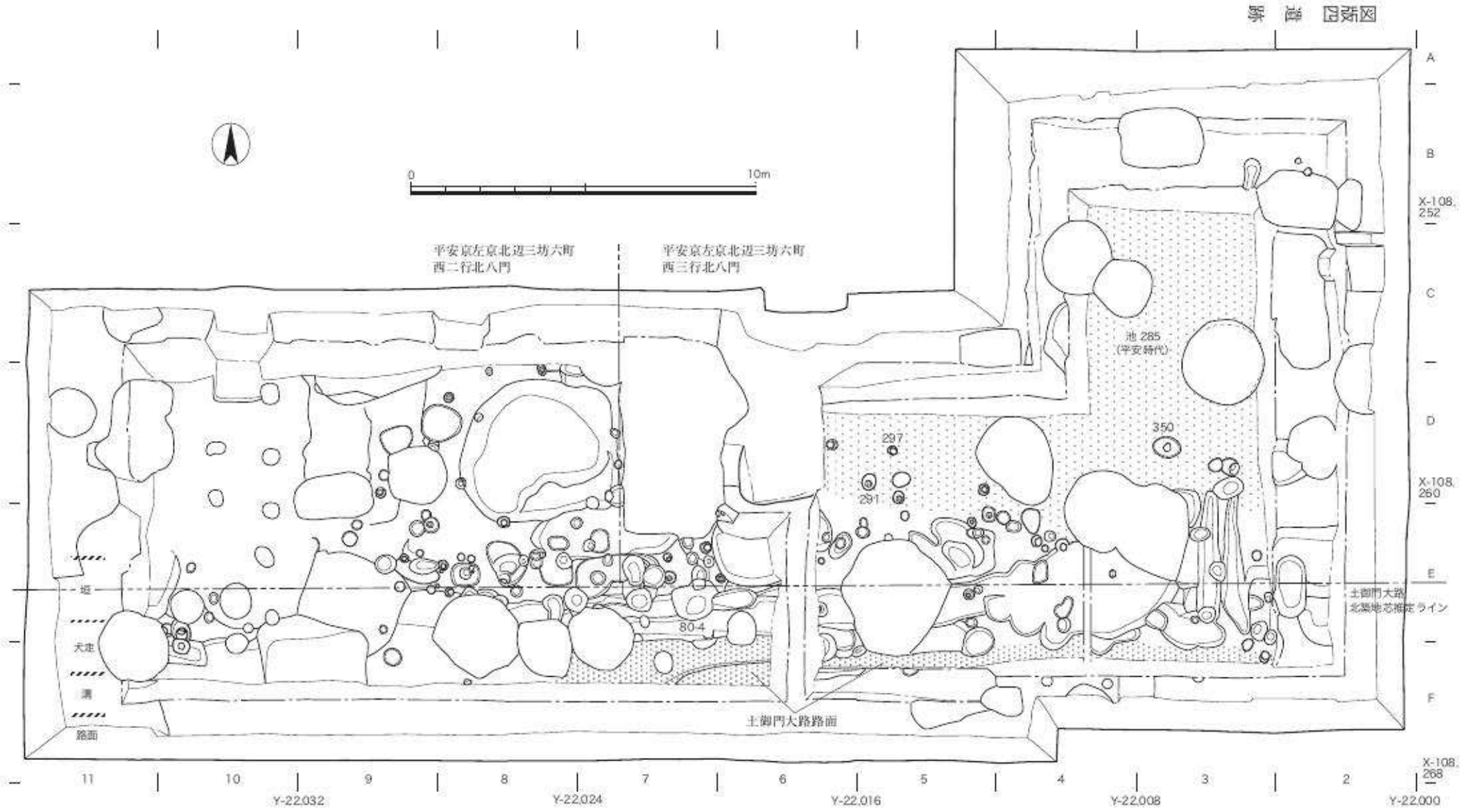

0
10m
土壙 35
38
37
37
43
44
46
32
A
B
C
D
E
F
X-108.252
X-108.260
X-108.268
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
Y-22.032
Y-22.024
Y-22.016
Y-22.008
Y-22.000

第２面実測図　(1/150)

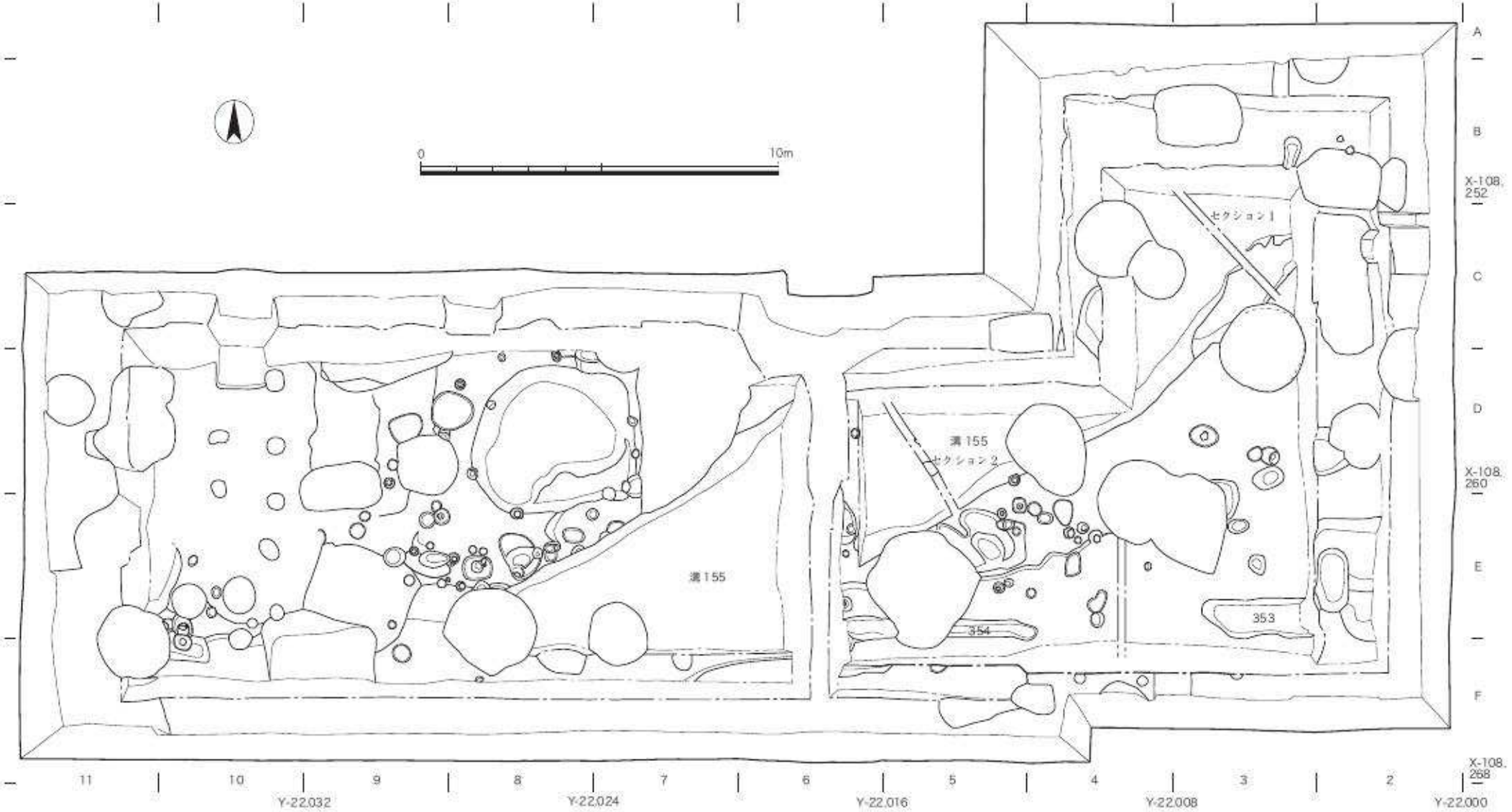


第３面実測図　(1/150)

図版Ⅲ　遺構

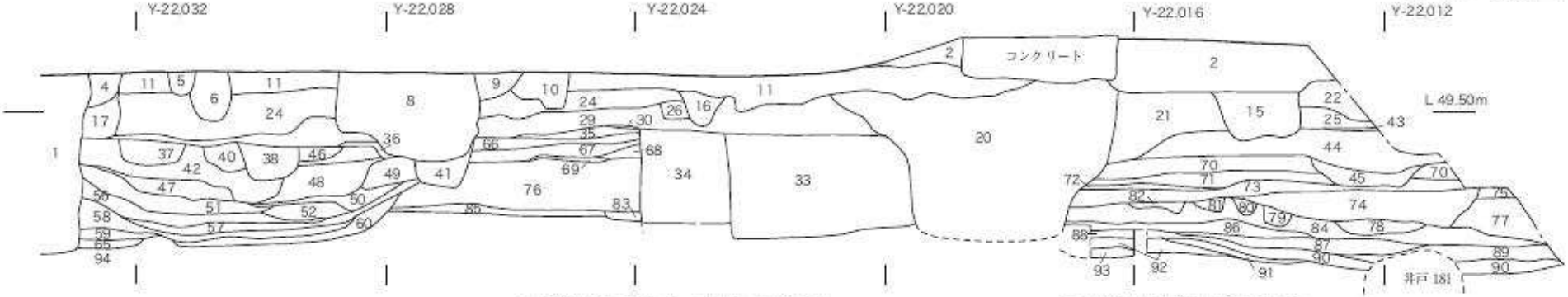

0
10m
平安京左京北辺三坊六町
西二行北八門
平安京左京北辺三坊六町
西三行北八門
池 285
(平安時代)
350
297
291
80-4
土御門大路路面
土御門大路
北築地芯推定ライン
A
B
C
D
E
F
X-108,252
X-108,260
X-108,268
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
Y-22,032
Y-22,024
Y-22,016
Y-22,008
Y-22,000

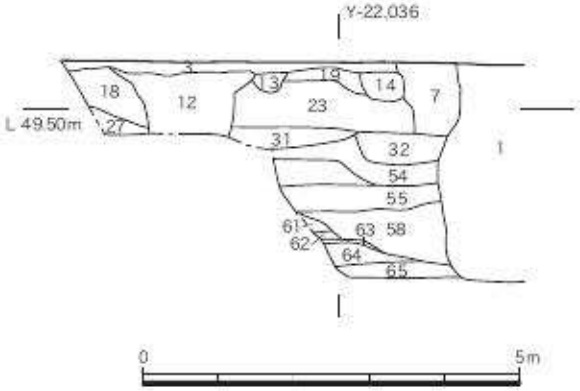
第４面実測図　(1/150)



第5面実測図 (1/150)

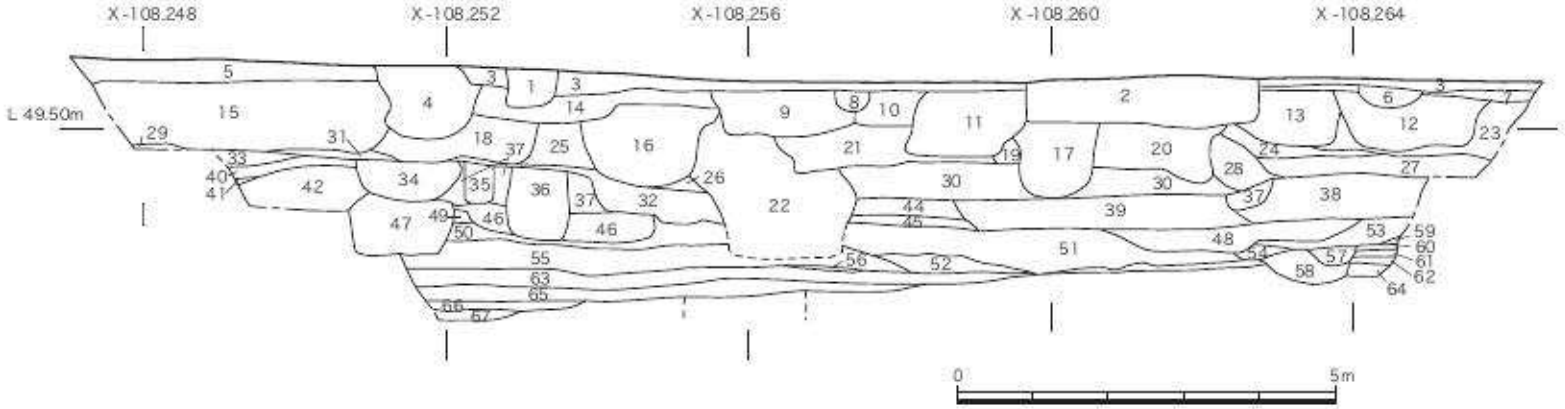
図版目録





1　試掘坑
2　10YR4/2灰黄褐色砂泥〔φ5cmまでの礫・土師器片・焼土少量混〕
3　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦少量混、φ1～15cm大の礫少量混、コンクリート混〕
4　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦少量混〕
5　10YR4/2灰黄褐色砂泥〔炭・コンクリートブロック・土管片混〕
6　7.5YR4/2灰褐色砂泥〔φ1～10cm大の礫多く混〕
7　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔炭多く混、土師器片・瓦片・磁器片少量混〕
8　10YR3/3暗褐色砂泥〔瓦片・コンクリート片・ガラス片・レンガ片混、φ20cmまでの礫多く混〕
9　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥〔コンクリート片少量混、φ20cmまでの礫混じる〕
10　10YR4/4褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦・花崗岩片・φ1～15cm大の礫少量混〕
11　10YR4/2灰黄褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦片・焼土少量混〕
12　2.5Y5/2暗灰黄色砂泥〔瓦片・φ1～30cmの礫少量混〕
13　10YR3/3暗褐色砂泥〔炭・土管片混〕
14　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦片・焼土少量混〕
15　10YR3/3暗褐色砂泥〔炭・瓦片混〕、10YR4/4褐色砂泥固く締まる〔炭・焼土少量混〕
16　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔レンガ片・漆喰片・炭混〕
17　10YR5/4にぶい黄褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦片少量混〕
18　10YR4/4褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦片・φ1～25cm大の礫少量混〕
19　10YR4/4褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦片少量混〕
20　7.5YR4/3褐色砂泥〔瓦多量に混〕
21　10YR3/2黒褐色砂泥〔φ15cmまでの礫多く混、瓦混、土師器片・炭少量混〕
22　7.5YR3/3暗褐色砂泥〔焼土多く混、瓦少量混〕
23　10YR3/4暗褐色砂泥〔炭・土師器片・φ1～6cmの礫少量混混〕
24　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥〔炭・土師器片・瓦片少量混〕
25　10YR3/2黒褐色砂泥〔φ5cmまでの礫混、瓦混、瓦少量混〕
26　7.5YR4/2灰褐色砂泥〔瓦片・焼土多く混〕
27　10YR3/3暗褐色砂泥〔炭・土師器片・φ1～6cmの礫少量混混〕
28　10YR4/2灰黄褐色砂泥〔炭・土師器片・φ1～10cmの礫少量混〕
29　7.5YR4/3褐色砂泥〔焼土・瓦片多く混〕
30　10YR4/2灰黄褐色砂泥
31　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥〔炭・土師器片・φ1～8cmの礫少量混〕
32　10YR3/2黒褐色砂泥〔φ15cmまでの礫・瓦片多量に混じる、漆喰ブロック混〕
33　7.5YR4/3褐色砂泥〔焼土・焼瓦多量に混じる〕
34　10YR3/3暗褐色砂泥
35　10YR4/2灰黄褐色砂泥
36　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥〔φ15cmまでの礫混〕
37　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔φ12cmまでの礫・瓦片多量に混じる〕
38　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔φ8cmまでの礫・瓦片多量に混じる〕
39　10YR5/2灰黄褐色混砂〔φ2cmまでの礫混、瓦片・炭少量混〕
40　10YR5/3～同4/3にぶい黄褐色砂泥〔φ3cmまでの礫混、焼土ブロック混〕
41　10YR4/2灰黄褐色砂泥〔φ6cmまでの礫・炭混、焼土ブロック混〕
42　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥〔φ7cmまでの礫多く混〕
43　10YR3/3暗褐色砂泥〔炭少量混〕
44　10YR3/2黒褐色砂泥〔φ10cmまでの礫・炭・土師器片混〕
45　10YR3/3暗褐色砂泥〔φ5cmまでの礫少量混、炭・土師器片混〕
46　10YR5/3～同4/3にぶい黄褐色砂泥〔φ3cmまでの礫混、焼土ブロック混〕
47　10YR4/2灰黄褐色砂泥に10YR4/6褐色砂泥帯状に入る〔φ5cmまでの礫・炭・瓦片少量混、土師片微量混〕
48　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、固く締まる〔φ6cmまでの礫混、炭少量混〕
49　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、固く締まる〔φ5cmまでの礫混、瓦片・炭少量混〕
50　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔φ15cmまでの礫混、炭・土師器片少量混〕
51　10YR3/2黒褐色砂泥〔φ10cmまでの礫・炭・土師器片混〕
52　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥〔φ12cmまでの礫混〕
53　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥〔φ15cmの礫少量混〕
54　2.5Y5/4黄褐色粗砂
55　10YR2/2黒褐色砂礫
56　10YR3/3暗褐色砂泥〔φ6cmまでの礫・炭混、土師器片微量混〕
57　炭層〔φ3cmまでの礫、土師器片少量混〕
58　10YR4/4褐色砂泥〔瓦多量に混じる〕
59　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔瓦片・土師器片少量混〕
60　10YR2/2黒褐色砂泥〔φ4cmまでの礫・瓦片少量混、土師器片微量に混じる〕
61　10YR3/3暗褐色砂泥、10YR4/4褐色砂泥〔φ2～12cmの礫・瓦片・土師器片・炭少量混〕
62　10YR2/3黒褐色砂泥〔土師器片・炭・瓦片混〕
63　N1.5/0黒色灰層
64　10YR2/3黒褐色砂泥〔土師器片少量混〕
65　10YR3/4暗褐色砂泥〔φ10cmまでの礫・瓦片混〕
66　10YR4/2灰黄褐色砂泥〔φ12cmまでの礫混、炭・土師器片少量混〕
67　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔φ12cmまでの礫混、炭・土師器片少量混〕
68　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、固く締まる〔φ2cmまでの礫少量混、土師器片微量混〕
69　10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、固く締まる〔炭微量に混〕
70　10RY4/4褐色砂泥〔土師器片・炭混〕
71　10YR3/3～3/4暗褐色砂泥〔炭・土師器片混〕
72　10YR3/4暗褐色砂泥〔土師器片少量混〕
73　10YR3/3暗褐色砂泥〔φ20cmまでの礫少量混、土師器片混、炭多く混〕
74　10YR3/3暗褐色砂泥〔土師器片・炭多く混、φ20cmほどの礫少量混〕
75　10RY4/4褐色砂泥〔土師器片・炭混〕
76　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔φ10cmまでの礫・土師器片少量混、炭微量に混〕
77　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔土師器片・炭混、φ10cm程の礫少量混〕
78　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥〔遺物・炭混、φ5cm程の礫少量混〕
79　10YR3/2黒褐色砂泥〔土師器片・炭混〕
80　10YR3/2黒褐色砂泥〔土師器片・炭混〕
81　10YR3/2黒褐色砂泥〔土師器片・炭混〕
82　10YR3/3暗褐色砂泥〔土師器片・炭混〕
83　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、固く締まる〔φ5cmまでの礫少量混〕
84　10YR4/2灰黄褐色砂泥〔土師器片・須恵器片・炭混、φ10cm程の礫少量混〕
85　10YR3/2黒褐色砂泥〔φ5cmまでの礫少量、土師器・炭片微量混〕
86　10YR3/3暗褐色砂泥〔炭・土師器片少量混〕
87　10YR3/3暗褐色砂泥
88　10YR3/2黒褐色砂泥〔炭微量混〕
89　10YR3/3暗褐色砂泥〔シルト・粗砂混、φ5cm程の礫混〕
90　10YR3/2黒褐色砂泥〔シルト・粗砂混、φ5cm程の礫混〕
91　10YR3/2黒褐色砂泥〔シルト混、φ10cm程の礫混〕
92　10YR2/3黒褐色砂泥〔シルト・粗砂混、φ5cm程の礫混〕
93　10YR3/2黒褐色砂泥〔シルト・粗砂・礫多量に混、φ10cm程の礫混〕
94　10YR5/4にぶい黄褐色砂礫〔地山〕

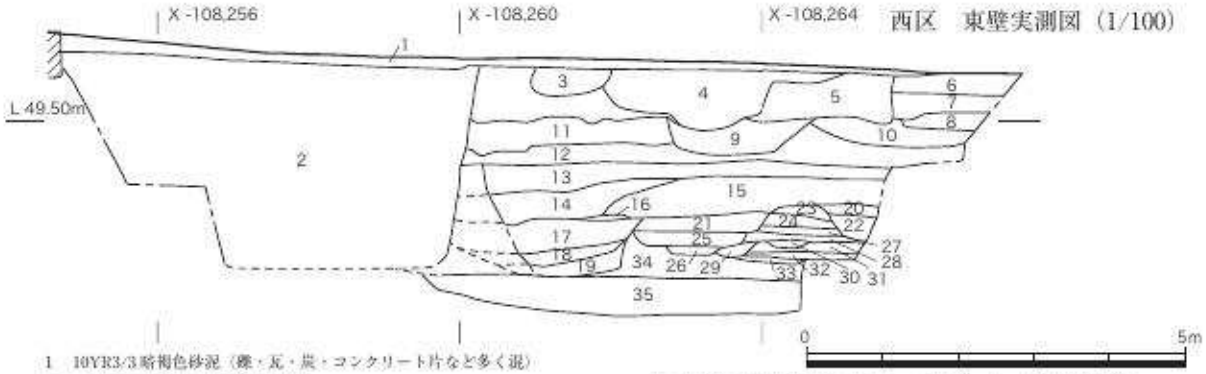
西～東区　北壁実測図（1/100）



1　10YR3/3暗褐色砂泥（φ10cmまでの礫混）
2　10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cmまでの礫混、炭少量・漆喰混）
3　10YR2/2黒褐色砂泥（砕石混）
4　7.5YR3/2黒褐色砂泥（焼土多量、瓦少量混）
5　10YR4/2灰黄褐色砂泥・10YR3/2黒褐色砂泥（礫混、木根あり）
6　10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cmまでの礫、炭少量・漆喰混）
7　10YR3/3暗褐色砂泥（炭多く混、焼土・漆喰片少量混）
8　暗渠
9　7.5YR3/3暗褐色焼土（炭多量・瓦少量・φ20cmまでの礫混）
10　10YR3/4暗褐色砂泥（φ20cmまでの礫・漆喰多量に混）
11　7.5YR4/3褐色焼土、下層は10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cm礫・瓦少量混、粘土ブロック混）
12　10YR3/2黒褐色砂泥（φ20cmまでの礫・漆喰・レンガ多量に混）
13　10YR3/2黒褐色砂泥（炭・焼土多量に混）
14　7.5YR3/1黒褐色砂泥（炭・土師器片・φ5cmまでの礫少量混）
15　10YR3/2黒褐色砂泥（炭・土師器片・漆喰片混、φ20cmまでの礫多量に混）
16　10YR3/2黒褐色砂泥、10YR5/6黄褐色砂礫混
17　10YR4/2灰黄褐色砂泥、10YR5/6黄褐色粘質土まだらに混じる（φ5cm礫多量・炭微量に混）
18　10YR3/2黒褐色砂泥（瓦少量、炭多量に混）
19　10YR4/2灰黄褐色砂泥（炭多量、粘土ブロック混）
20　10YR3/3暗褐色砂泥（φ20cmまでの礫少量、粘土ブロック、焼土多量に混）
21　10YR2/2黒褐色砂泥（φ15cmまでの礫・炭混）
22　10YR3/2黒褐色砂泥（炭多量・焼土混）［土壙171］
23　10YR3/3暗褐色砂泥（漆喰片・コンクリート片混じる）
24　10YR3/3暗褐色砂泥（φ10cmまでの礫・瓦・炭・漆喰片混）
25　10YR4/2灰黄褐色砂泥（φ5cmまでの礫・炭・土師器片少量混）
26　10YR4/2灰黄褐色砂泥（φ5cmまでの礫・炭・土師器片混）
27　2.5Y3/2黒褐色砂泥（炭少量混）
28　10YR3/2黒褐色砂泥（砂っぽい、φ5cmほどの礫・炭少量混）
29　10YR2/2黒褐色砂泥（砂混、小礫混、西部に漆喰・炭・φ10cmまでの礫溜まりあり）
30　10YR2/3黒褐色泥砂（φ15cmまでの礫・土師器片少量混）
31　10YR2/3黒褐色泥砂（炭・土師器片少量混）
32　10YR2/2黒褐色砂泥（φ15cmまでの礫・炭・土師器片混）
33　10YR3/2黒褐色砂泥（土師器片・粗砂・礫混）
34　10YR3/2黒褐色砂泥（炭多量・焼土・漆喰混）
35　10YR2/2黒褐色砂泥（炭多量に混）
36　10YR3/3暗褐色砂泥（φ5cmまでの礫混、下層に炭多量に混）
37　10YR3/3暗褐色泥砂（炭・焼土混）
38　2.5Y4/3オリーブ褐色砂礫（φ10cm程の礫入る）
39　10YR3/2黒褐色砂泥（炭・焼土混）
40　10YR2/3黒褐色砂泥（φ5cm程の礫・土師器片・炭少量混）
41　10YR4/2灰黄褐色砂泥、炭層（炭多量、粘土ブロック混）
42　10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cm程の礫少量混、焼土・炭土師器片混）
43　10YR3/2黒褐色砂泥（φ15cm礫・土師器片少量混、下層に炭多量に混）
44　10YR3/3暗褐色砂泥（φ5cmまでの礫・土師器片・炭少量混）
45　10YR3/3暗褐色砂泥（土師器片・炭少量混）
46　10YR3/3暗褐色砂泥（炭・焼土多量に混）
47　10YR3/2黒褐色砂泥（炭多量・焼土・漆喰混）
48　10YR3/2黒褐色砂泥（φ20cmほどの礫多量・土師器片・炭少量混）
49　10YR4/4褐色砂泥（土師器片・炭混）
50　10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cmまでの礫・土師器片少量混、一部土師器片集中部分あり）
51　10YR4/2灰黄褐色砂泥（土師器片・炭・φ15cmまでの礫混）
52　10YR3/2黒褐色砂泥（土師器片・炭混、φ5cmまでの礫少量混）
53　10YR3/1黒褐色砂泥（土師器片・炭・焼土微量に混）
54　10YR3/2黒褐色砂泥（土師器片・炭混）
55　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（土師器片・炭・φ10cmまでの礫混）
56　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（砂っぽい）
57　10YR3/3暗褐色砂泥（土師器片・炭・φ10cmまでの礫少量混）
58　10YR3/2黒褐色砂泥（土師器片・炭少量混）
59　25Y4/2暗灰黄色砂泥（炭・土師器片微量に混）
60　25Y4/3オリーブ褐色砂泥（固く締まる、路面）
61　25Y4/2暗灰黄色砂泥（粘質、炭微量に混）
62　75YR4/2灰褐色砂泥（φ1～5cmの礫混）
63　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ10cmまでの礫・土師器片・炭混）
64　25Y4/1黄灰色砂礫（固く締まる、炭・土師器片微量に混）
65　10YR3/3暗褐色砂泥（固く締まる、土師器片・炭微量に混）
66　10YR3/3暗褐色砂泥（シルト混、φ5cm程の礫・根砂混）
67　10YR3/3暗褐色砂泥

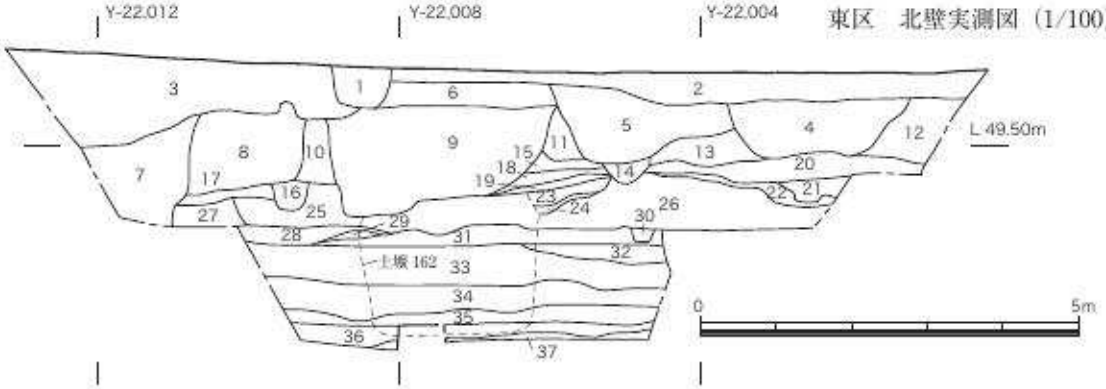
東区　東壁実測図（1/100）

西区　東壁実測図（1/100）



1　10YR3/3暗褐色砂泥（礫・瓦・炭・コンクリート片など多く混）
2　7.5YR4/4褐色砂泥（瓦多量に混）
3　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ20cm程の礫、漆喰・瓦片混）
4　10YR3/3暗褐色砂泥固く締まる（φ10cm程の礫・瓦片・炭多く混）
5　10YR3/3～3/4暗褐色砂泥（φ10cm程までの礫・瓦片・炭・漆喰多く混）
6　10YR3/3暗褐色砂泥（φ2～10cmの礫少量、炭・焼土微量、漆喰片混）
7　10YR3/2黒褐色砂泥（炭少量混、焼土多量に混じる）
8　漆喰溝
9　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ1～8cmまでの礫多く混）
10　10YR4/2灰黄褐色砂泥（炭・土師器片混）
11　10YR4/6褐色砂泥固く締まる（1～10cmまでの礫多く混）
12　10YR5/2灰黄褐色砂泥（φ20cmまでの礫多く混）
13　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ1～15cm程の礫混、炭・土師器片少量混）
14　10YR3/3暗褐色砂泥（φ1～15cm程の礫混、炭・土師器片少量混）
15　10YR3/2黒褐色砂泥（φ1～20cm程の礫混、炭・土師器片少量混）
16　10YR3/4暗褐色砂泥（炭・土師器片少量混）
17　10YR3/3暗褐色砂泥（φ1～5cm程の礫少量混、炭・土師器片多く混）
18　10YR3/4暗褐色砂泥（φ1～23cm程の礫・炭・土師器片混）
19　10YR3/2黒褐色砂泥（φ1～5cm程の礫・炭・土師器片少量混）
20　10YR3/3暗褐色砂泥（炭・土師器片少量混）
21　10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cm程の礫・炭・土師器片混）
22　10YR3/2黒褐色砂泥（φ1～20cm程の礫・炭・土師器片少量混）
23　10YR4/2灰黄褐色砂泥（炭微量混）
24　10YR3/4暗褐色砂泥（φ1～5cmの礫混）
25　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ1～15cm程の礫・炭・土師器片少量混）
26　10YR3/3暗褐色砂泥（炭少量混）
27　10YR3/3暗褐色砂泥（φ20cm程の礫・炭少量混）
28　10YR3/4暗褐色砂泥（炭・土師器片少量混）
29　10YR3/3暗褐色砂泥固く締まる（炭少量混）
30　10YR3/3暗褐色砂泥固く締まる（φ1～3cm程の礫・炭少量混）
31　10YR4/2灰黄褐色砂泥（炭・土師器片微量混）
32　2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥（φ2cm前後の礫多量に混）
33　2.5Y3/2黒褐色砂泥
34　10YR3/4暗褐色砂泥（φ1～8cm程の礫少量混）
35　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ1～20cm程の礫混じる）

東区　北壁実測図（1/100）



1　10YR3/2黒褐色砂泥（礫・レンガ・土管・鉄管など混）
2　10YR3/2黒褐色砂泥（φ20cm程までの礫・瓦・土管・漆喰・炭など混）
3　10YR4/2灰黄褐色砂泥・10YR3/2黒褐色砂泥（φ30cmまでの礫混、木根）
4　10YR3/2黒褐色砂泥・10YR4/6褐色粘土ブロック混（瓦・漆喰・煙）
5　10YR3/2黒褐色砂泥・10YR4/6褐色粘土少量混（瓦・漆喰・煙）
6　10YR3/3暗褐色砂泥（土師器片・φ5cm程の礫混）
7　10YR4/2灰黄褐色砂泥・10YR3/2黒褐色砂泥（礫混、木根あり）
8　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、粗砂礫混（φ30cm程の礫・焼土・炭・漆喰混）
9　10YR3/3暗褐色砂泥（焼土・炭・漆喰・瓦混）
10　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（焼土・炭混、下層は粗砂礫あり）
11　10YR4/2灰黄褐色砂泥（焼土・炭混）
12　10YR3/2黒褐色砂泥（炭・土師器片・漆喰片混、φ20cmまでの礫多量に混）
13　10YR4/6褐色砂泥（φ5cm程の礫・焼土・炭・漆喰混）
14　10YR3/4暗褐色砂泥、10YR7/8黄橙色粘質土ブロック混（φ10cmまでの礫混）
15　10YR2/2黒褐色砂泥（粗砂・焼土・炭混）
16　10YR2/3黒褐色砂泥、粗砂礫混（φ5cm程の礫・焼土・炭少量混）
17　10YR2/3黒褐色砂泥（焼土・炭・土師器片少量混）
18　10YR3/3暗褐色粗砂礫層泥砂混（φ5cm程の礫混じる）
19　10YR3/2黒褐色砂泥（炭混）
20　10YR2/2黒褐色砂泥（砂・小礫混）
21　10YR3/2黒褐色砂泥（土師器・粗砂混）
22　10YR4/2灰黄褐色砂泥（炭混）
23　10YR3/3暗褐色砂泥（焼土・炭・土師器片・小礫混）
24　10YR4/1褐灰色砂泥（土師器片・炭・粗砂混）
25　10YR4/2灰黄褐色砂泥（φ40cm程までの礫混）
26　10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cm程の礫少量混、焼土・炭・土師器片入る）
27　10YR3/2黒褐色砂泥
28　10YR3/3暗褐色砂泥（細かい土師器片多量に混じる）
29　10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cm程の礫混、焼土・炭・土師器片混）
30　10YR4/2灰黄褐色砂泥［溝279］
31　10YR4/4褐色砂泥（土師器片・炭混）
32　10YR3/2黒褐色砂泥（φ10cm程までの礫・土師器片・炭など混、土師器集中部分あり）
33　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ10cm程の礫少量、土師器片・炭混）
34　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ10cm程の礫・土師器片・炭混）
35　10YR3/3暗褐色砂泥固く締まる（土師器片・炭少量混）
36　10YR3/3暗褐色砂泥シルト混（φ10cm程の礫・粗砂混）
37　10YR3/3暗褐色砂泥固く締まる

1　西区、全景・江戸時代前期以降（東から）

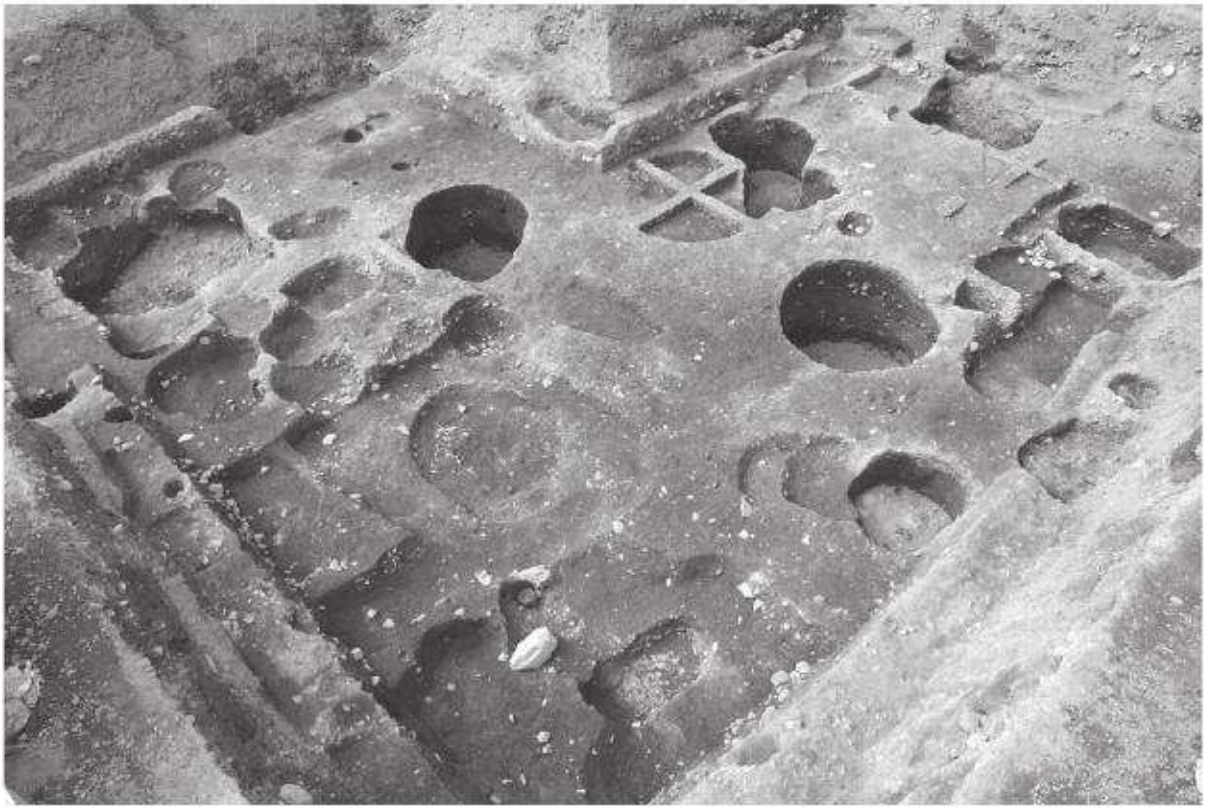
2　西区、全景・桃山時代～江戸前期（東から）

1　西区、全景・平安時代～中世（東から）

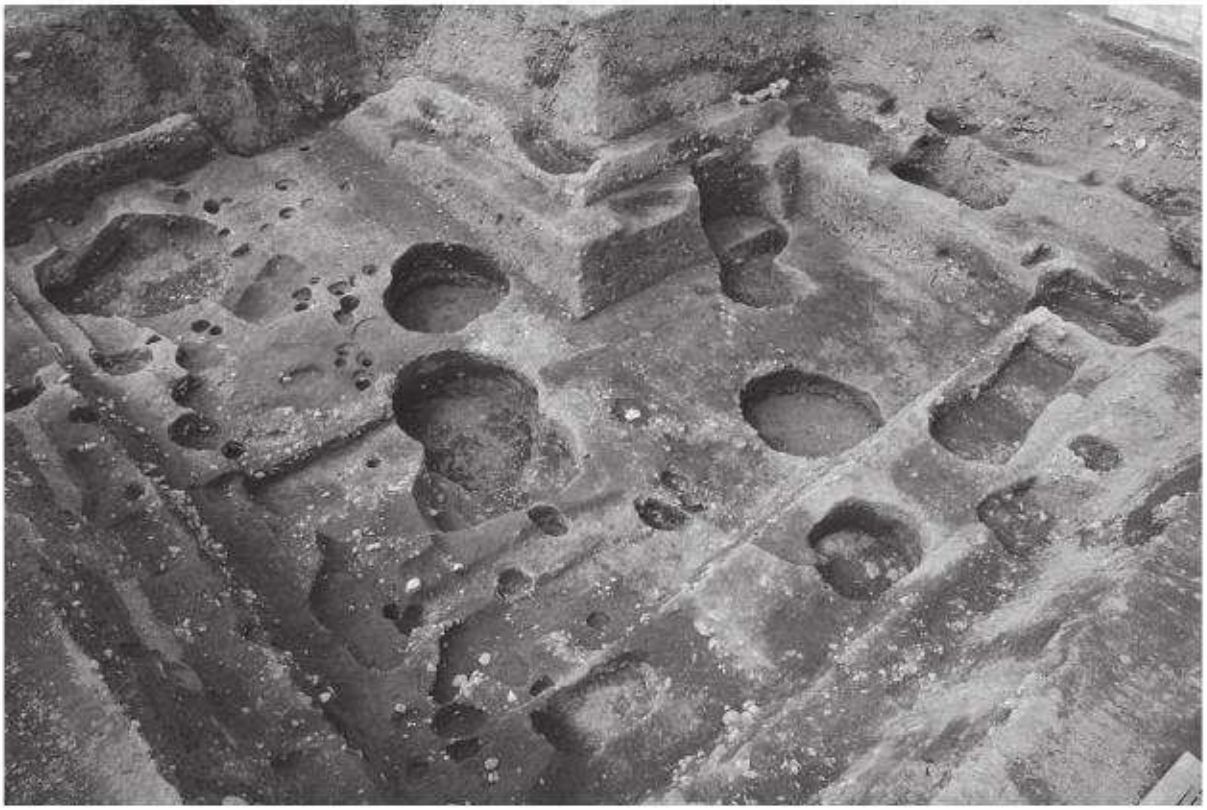
2　西区、全景・平安時代（東から）

1　西区、全景・平安時代前期（東から）

2　東区、全景・桃山時代～江戸時代（南東から）



1　東区、全景・平安時代～中世（南東から）



2　東区、全景・平安時代（南東から）

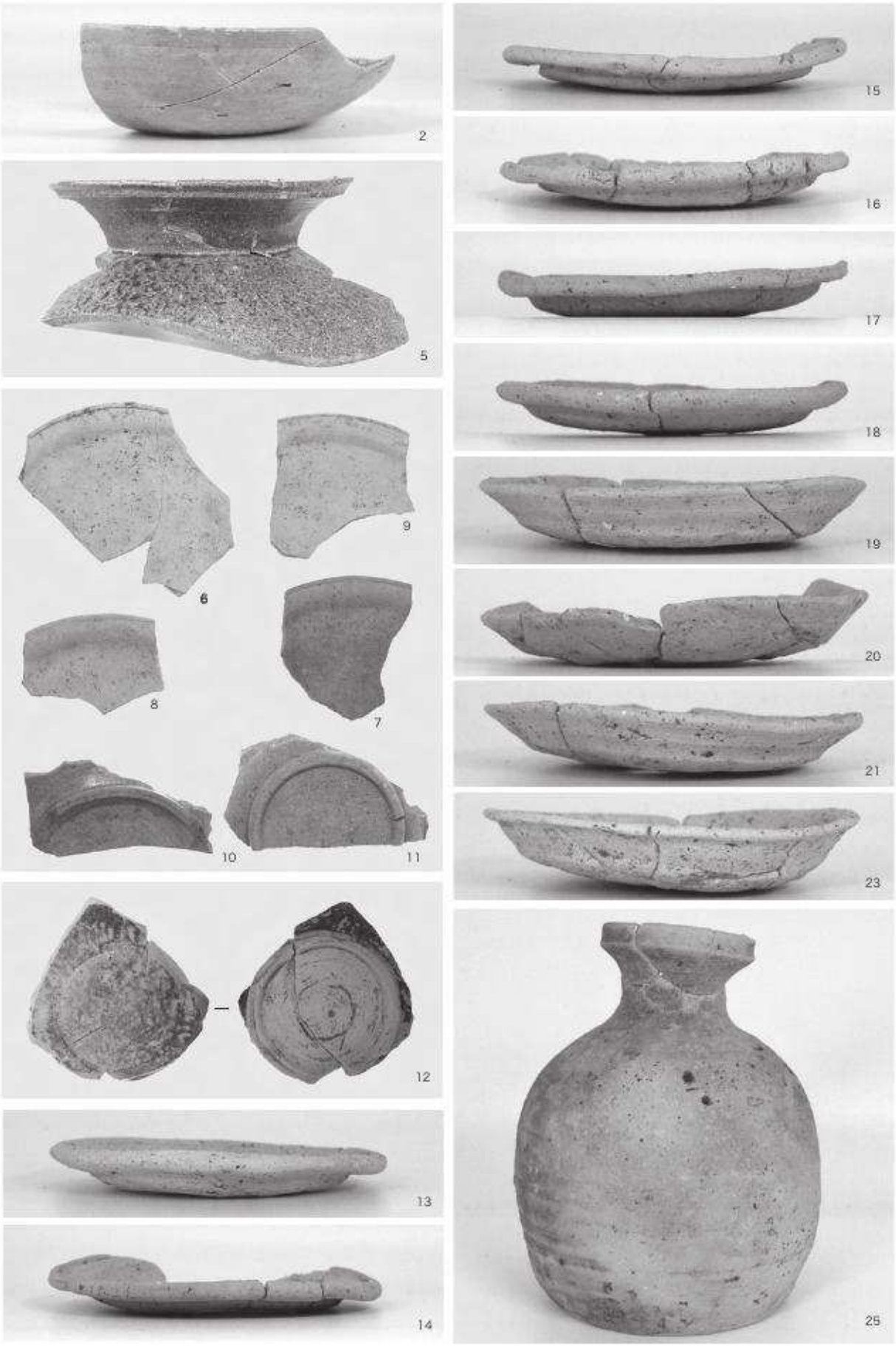
1　東区、全景・平安時代前期（南東から）

2　東区、溝 155 断面（斜行溝）（東から）

3　西区、溝 155（斜行溝）（北東から）

4　西区、柱穴 110（南から）

5　東区、土壙 160（南東から）



溝155（2・5）・池285（6～11）・柱穴122（12）・柱穴110（13～21・23・25）出土遺物

26

27

28

29

30

31

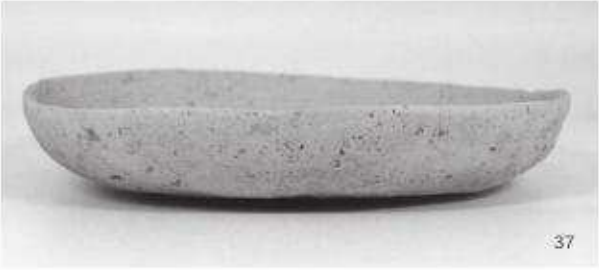
32

33

34

35

36


37

39

40

47

土壙 275（26 ～ 30）・土壙 261（31 ～ 37）・土壙 57（39・40）・土壙 104（47）出土遺物

48

49

57

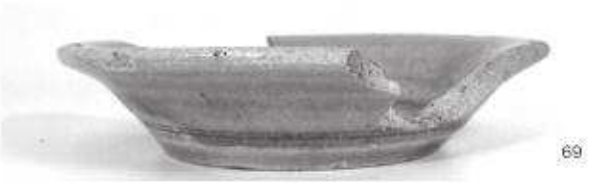
58

61

62

64

68

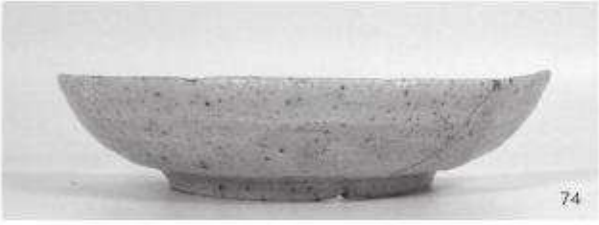

69

70

71

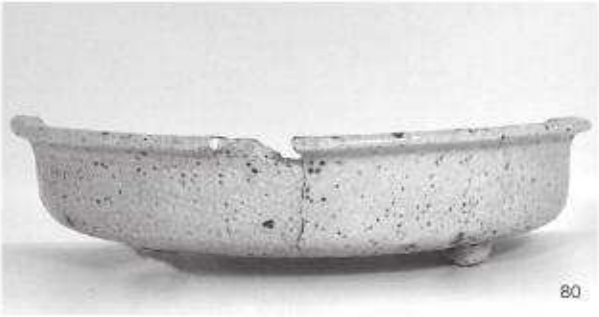
72

73


74

75

79


80

土壙 35 出土遺物

81

82

83

84

85

86

87

88

89

94

95

96

97

98

100

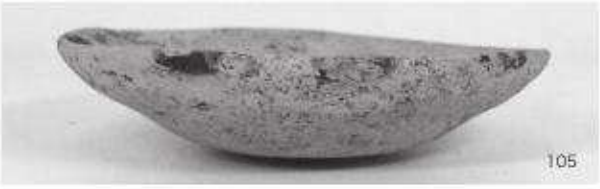
102

101

103

土壙 35（81 ～ 89）・土壙 32（94 ～ 98）・土壙 243（100 ～ 103）出土遺物

104


105

106

107

108

109

110

111

112

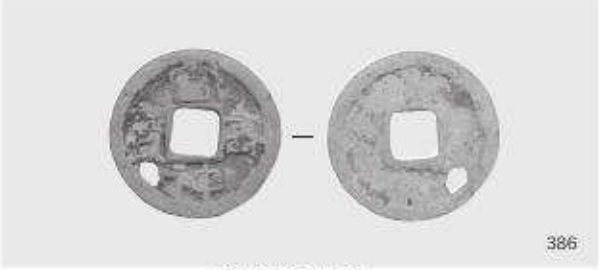
113

114

115

116

117

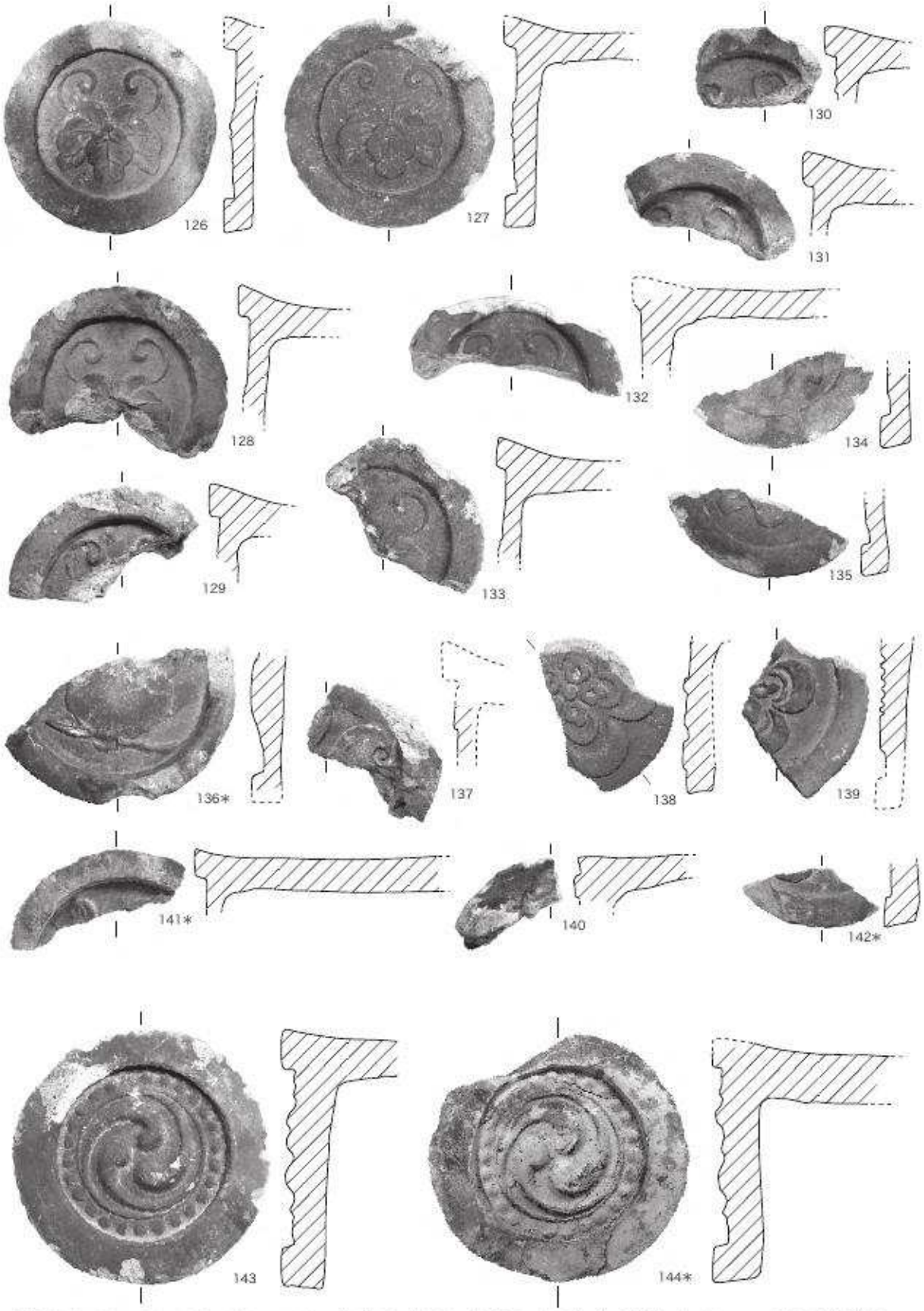

386

富寿神宝（1/1）

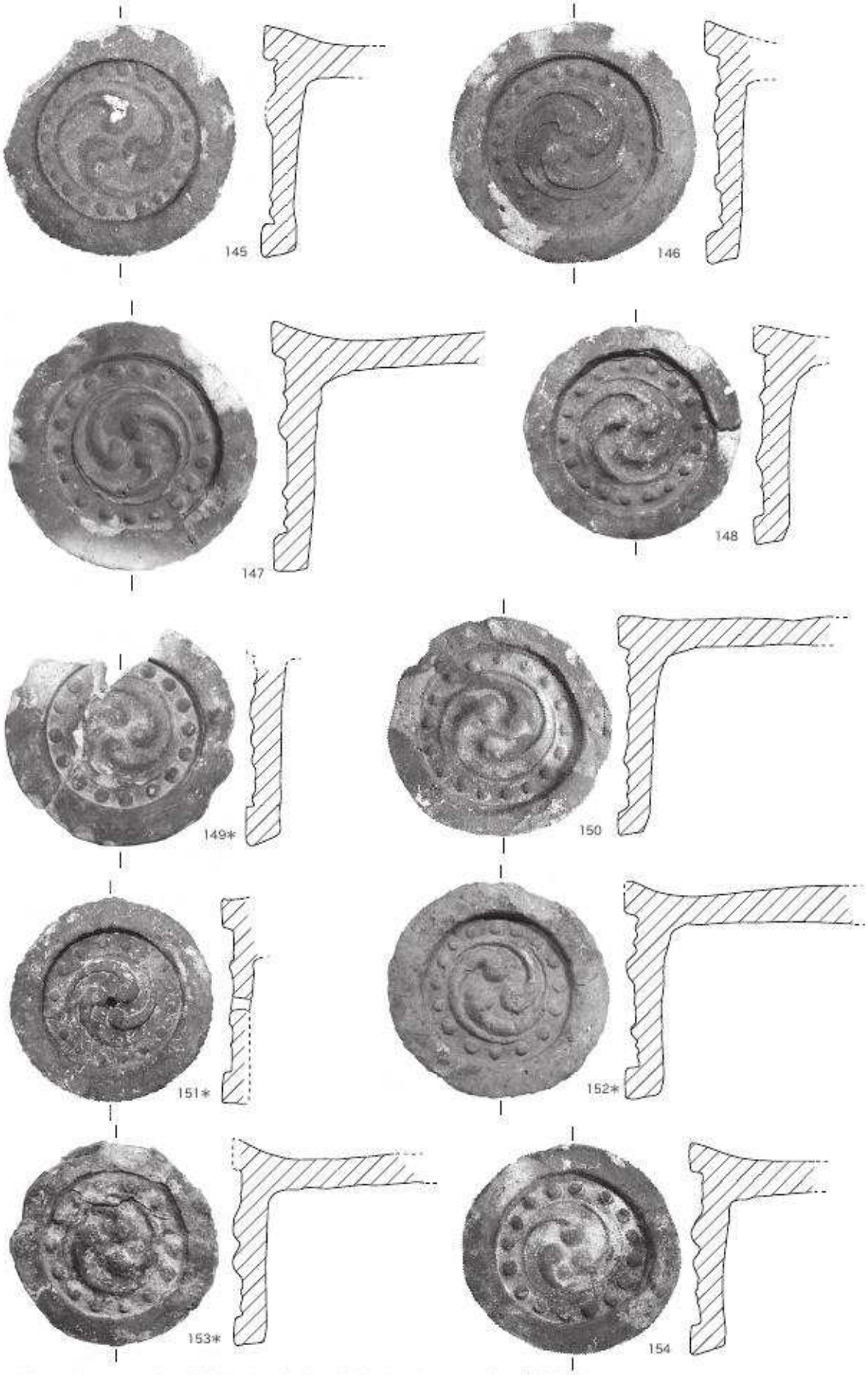
387　388

ガラス製小玉（10/1）

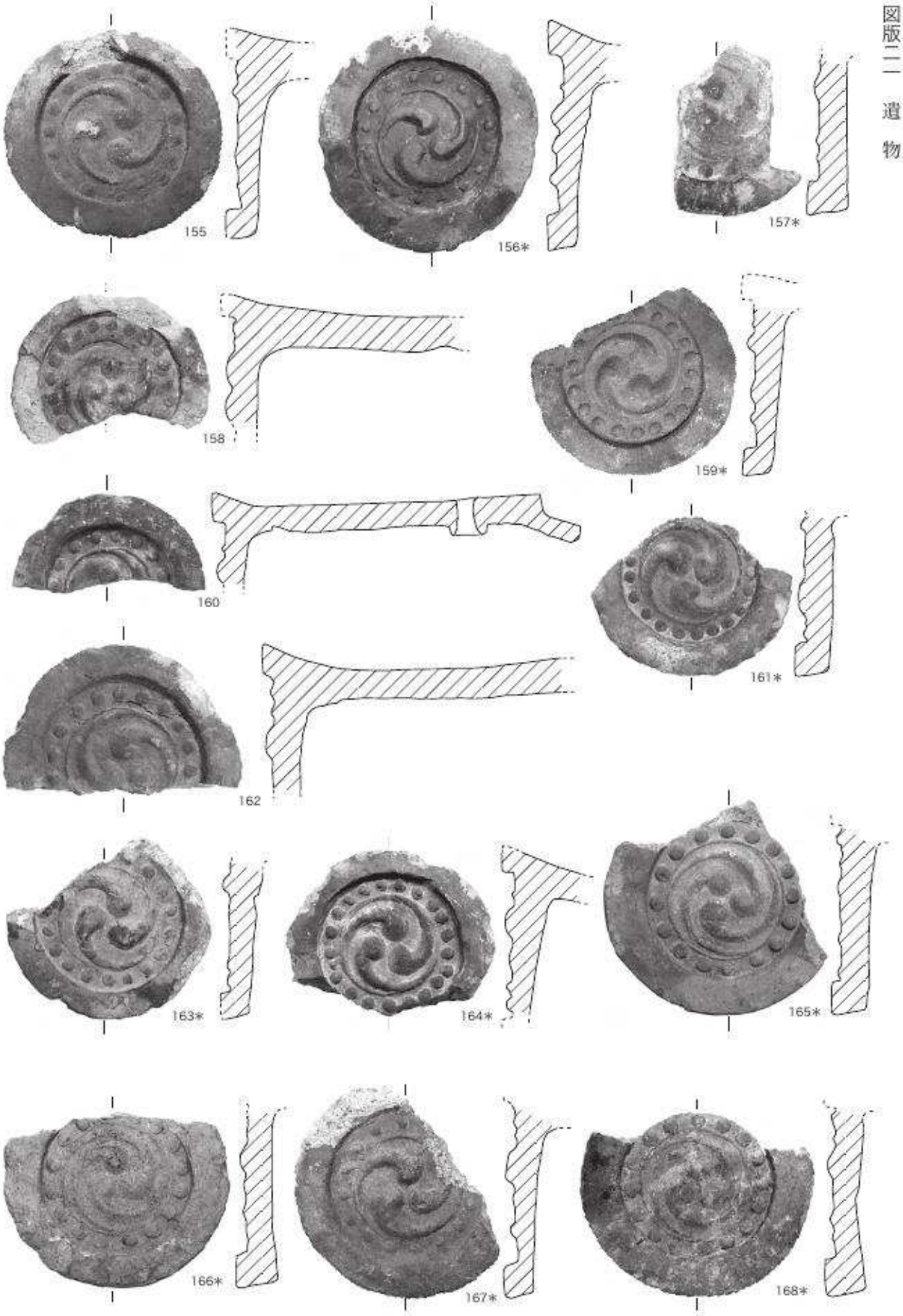
土壙 243（104 ～ 116）・土壙 183（117）・池 285（386）・柱穴 110 須恵器壺内（387・388）出土遺物



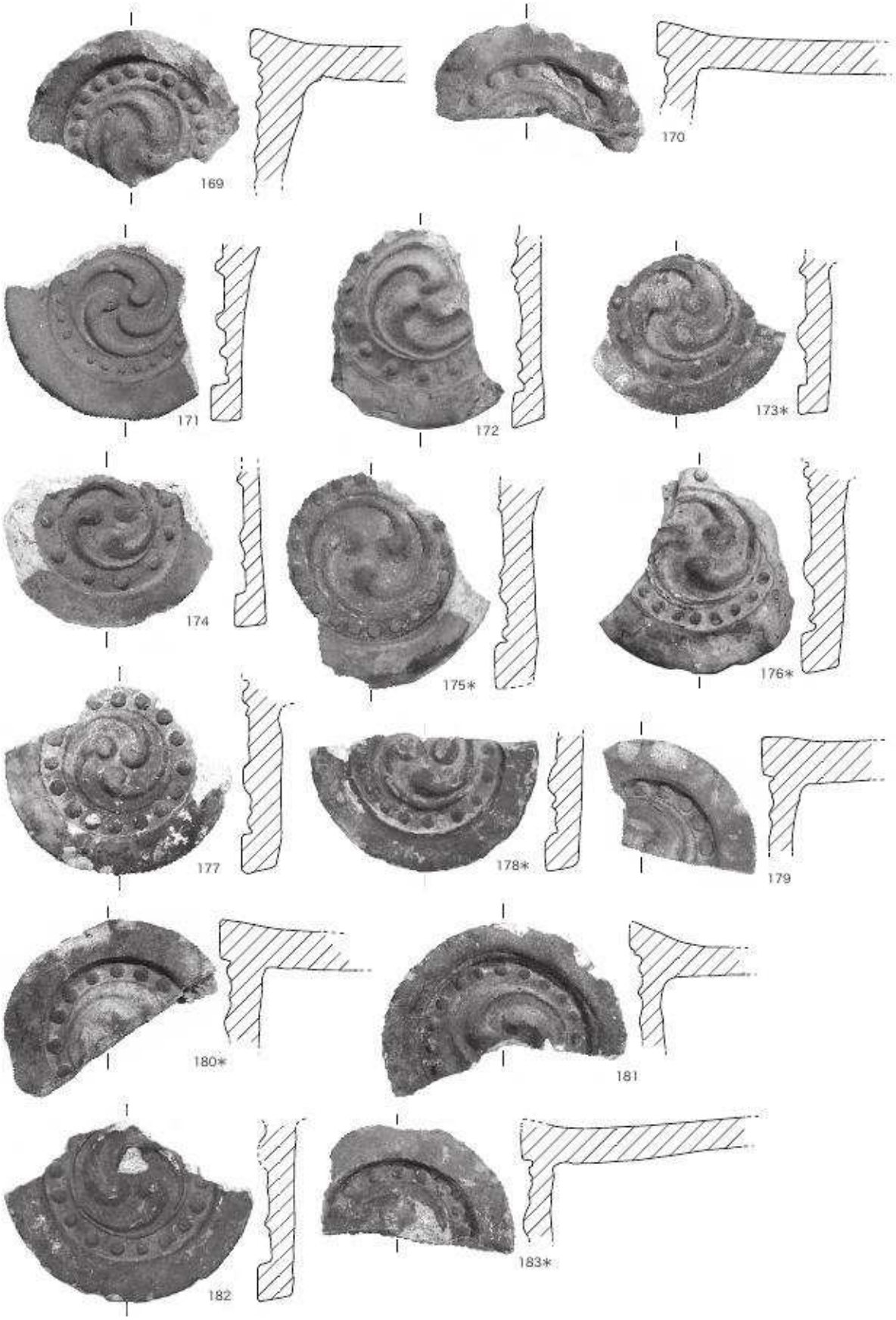
土壙 35（126 ～ 131・133・135 ～ 144）・井戸 28（132）・土壙 20（134）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



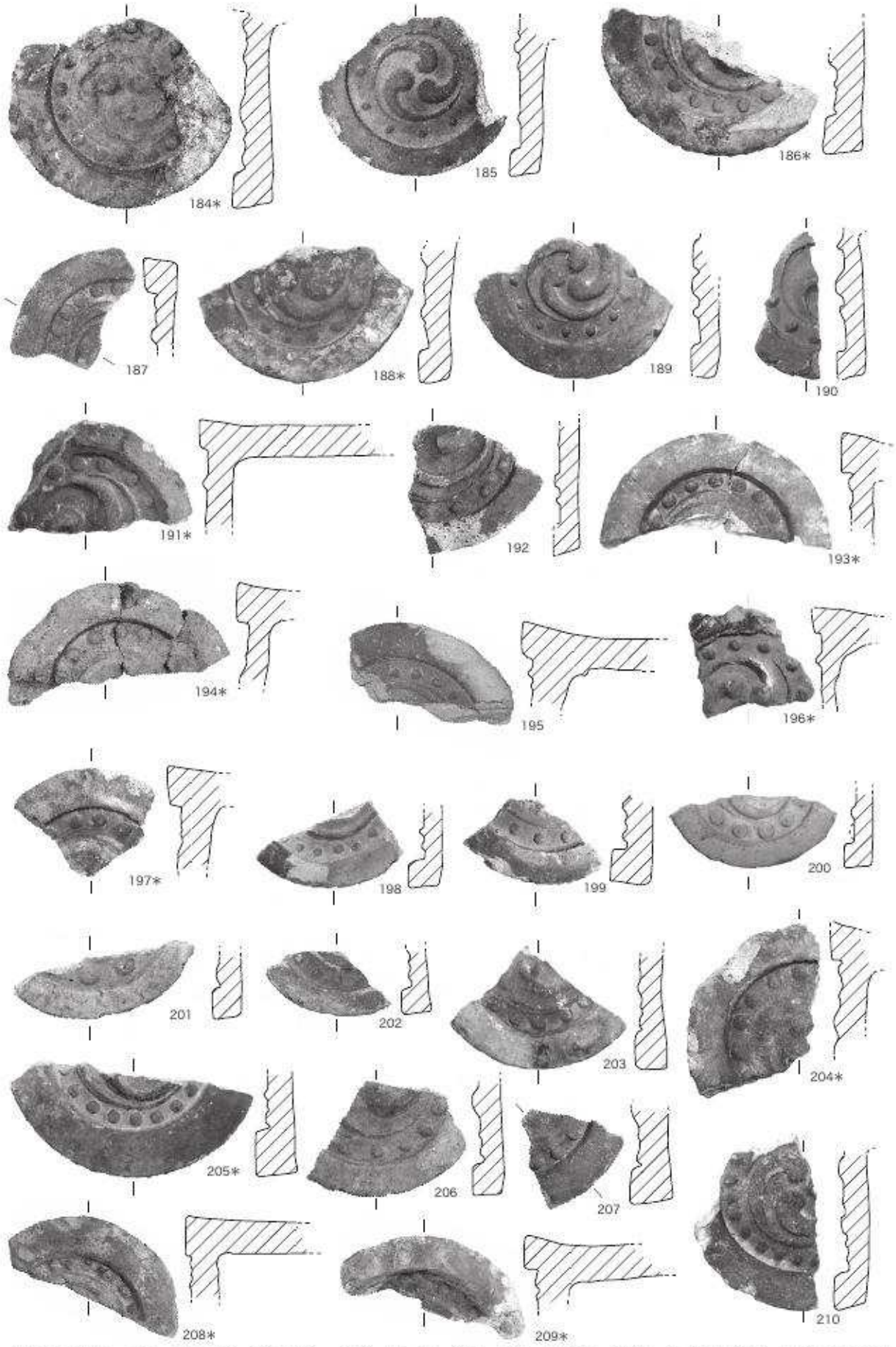
土壙 35（146 ～ 154）・精査中（145）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



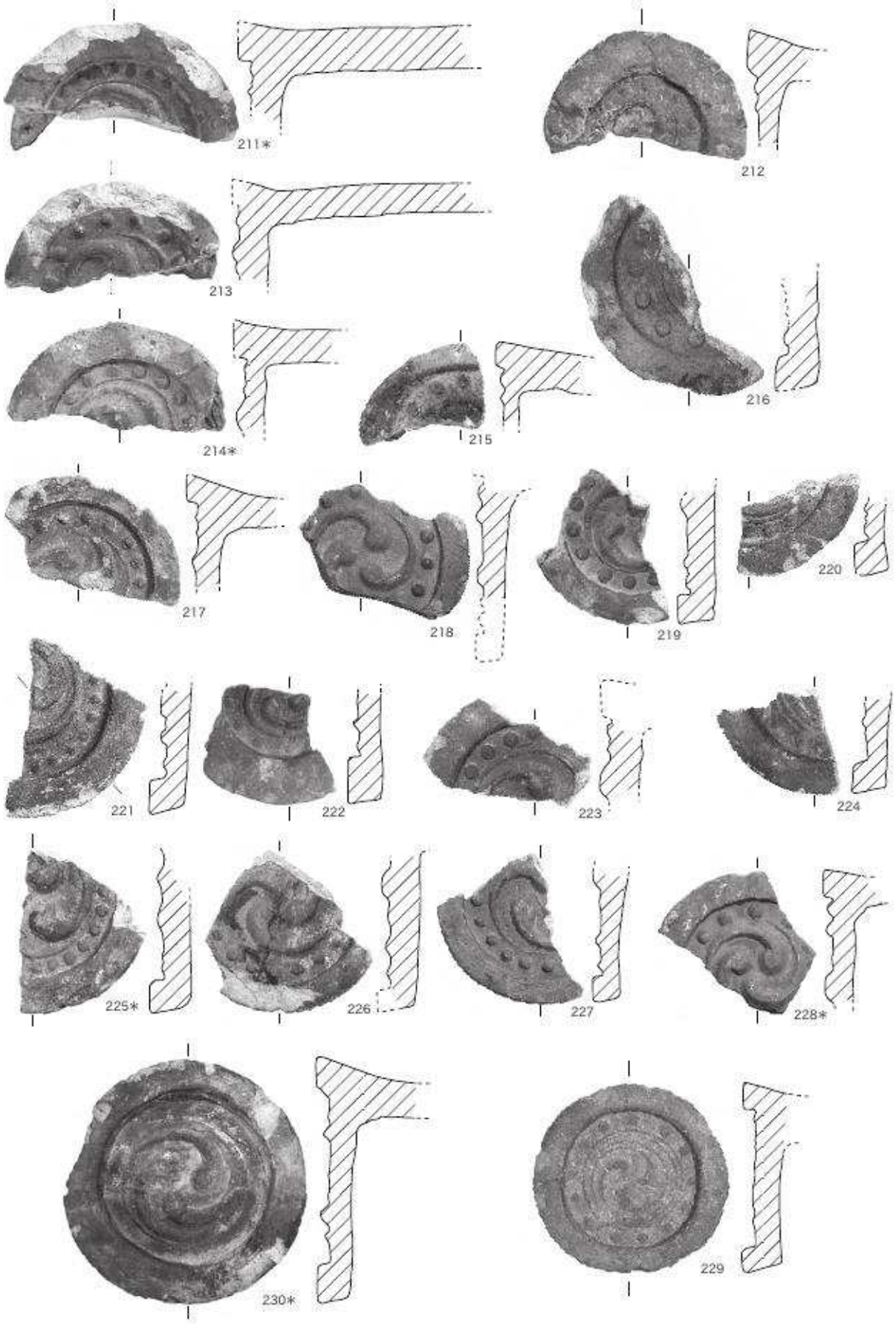
土壙 35（155・156・158・159・161 ～ 168）・井戸 6（157）・土壙 20（160）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



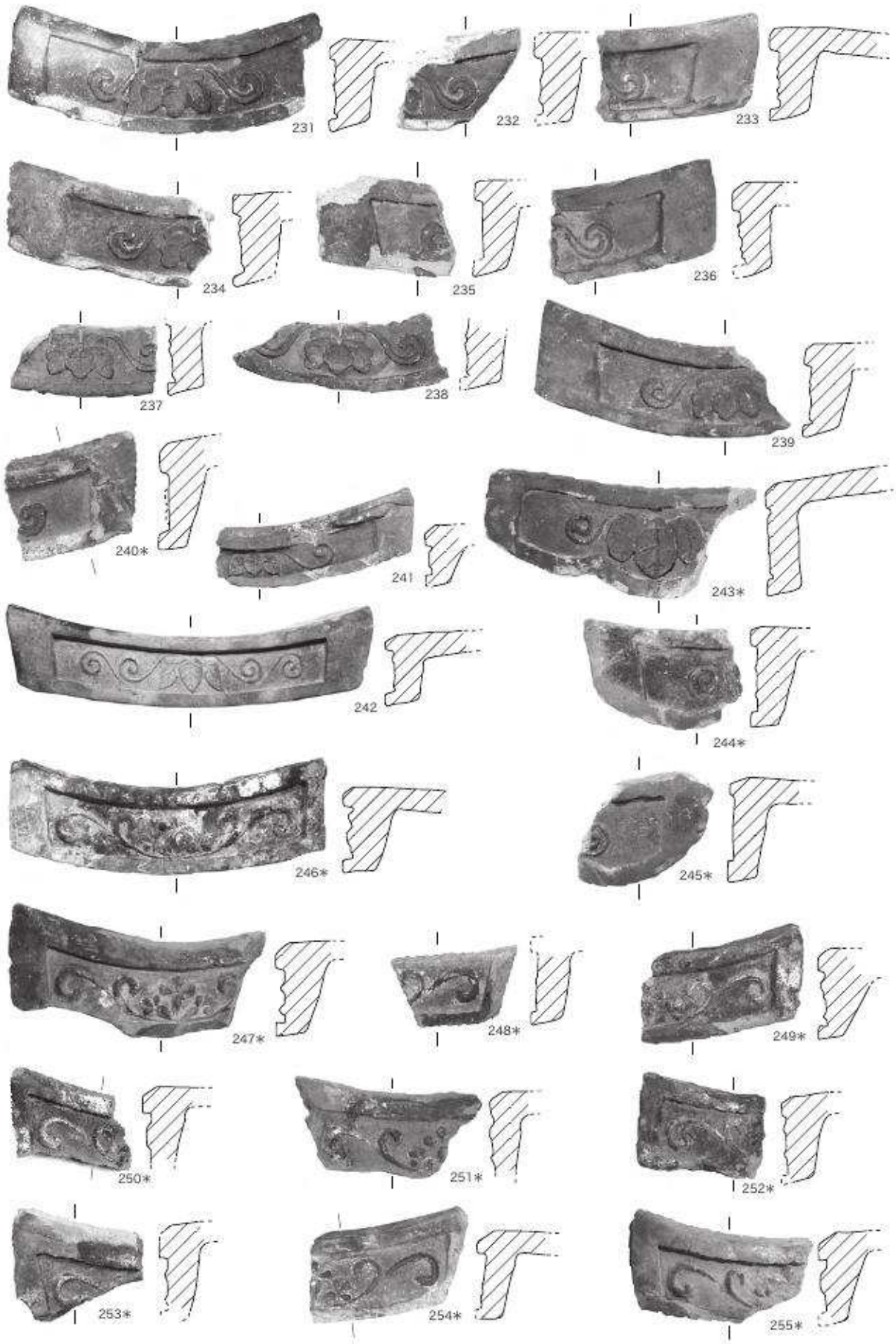
土壙 35（169 ～ 173・175 ～ 183）・土壙 19（174）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



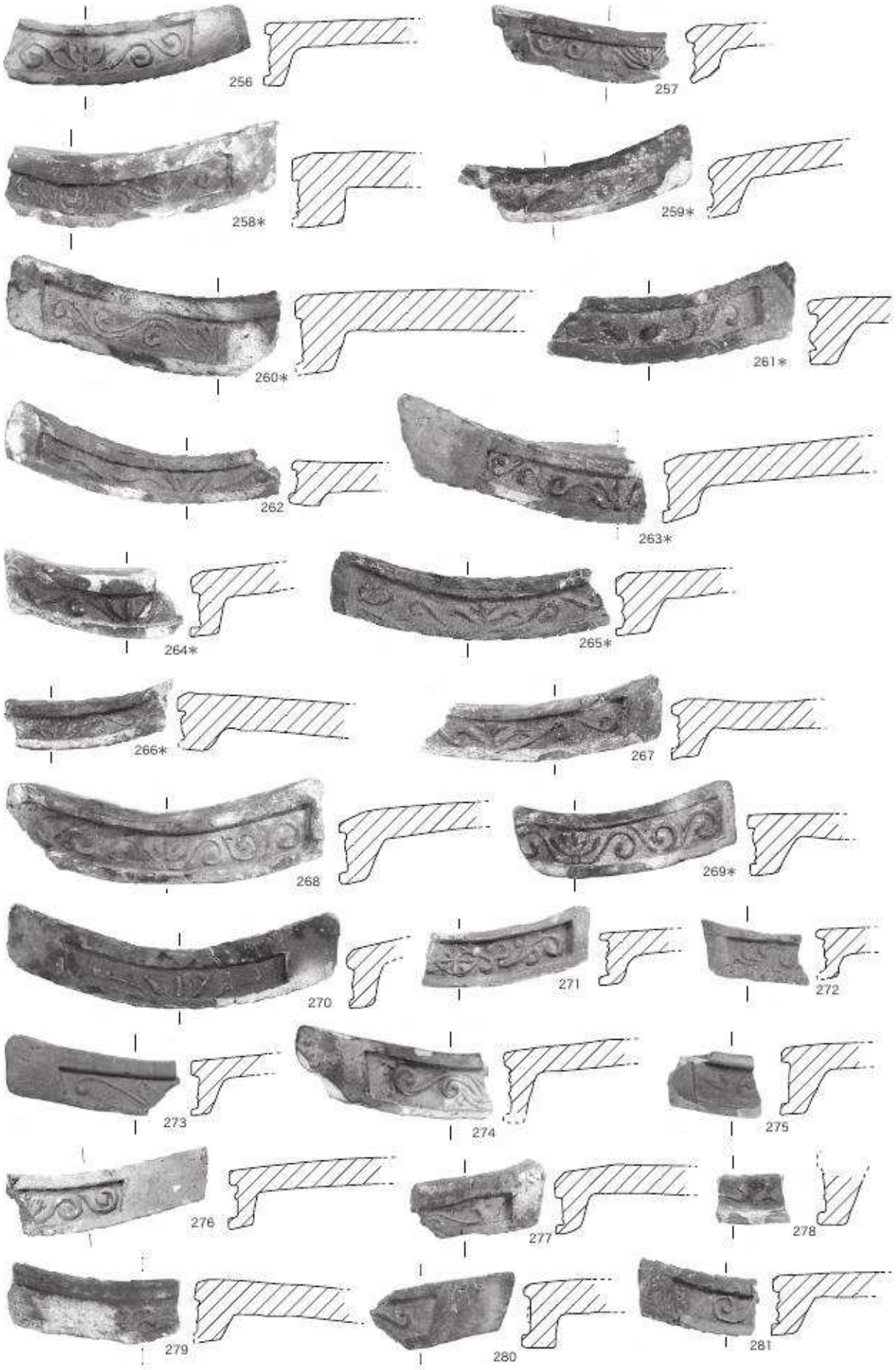
土壙 35（184 ～ 194・196・198・200・203 ～ 210）・井戸 6（195・197）・土壙 1（199）・井戸 16（201）土壙 26（202）
出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



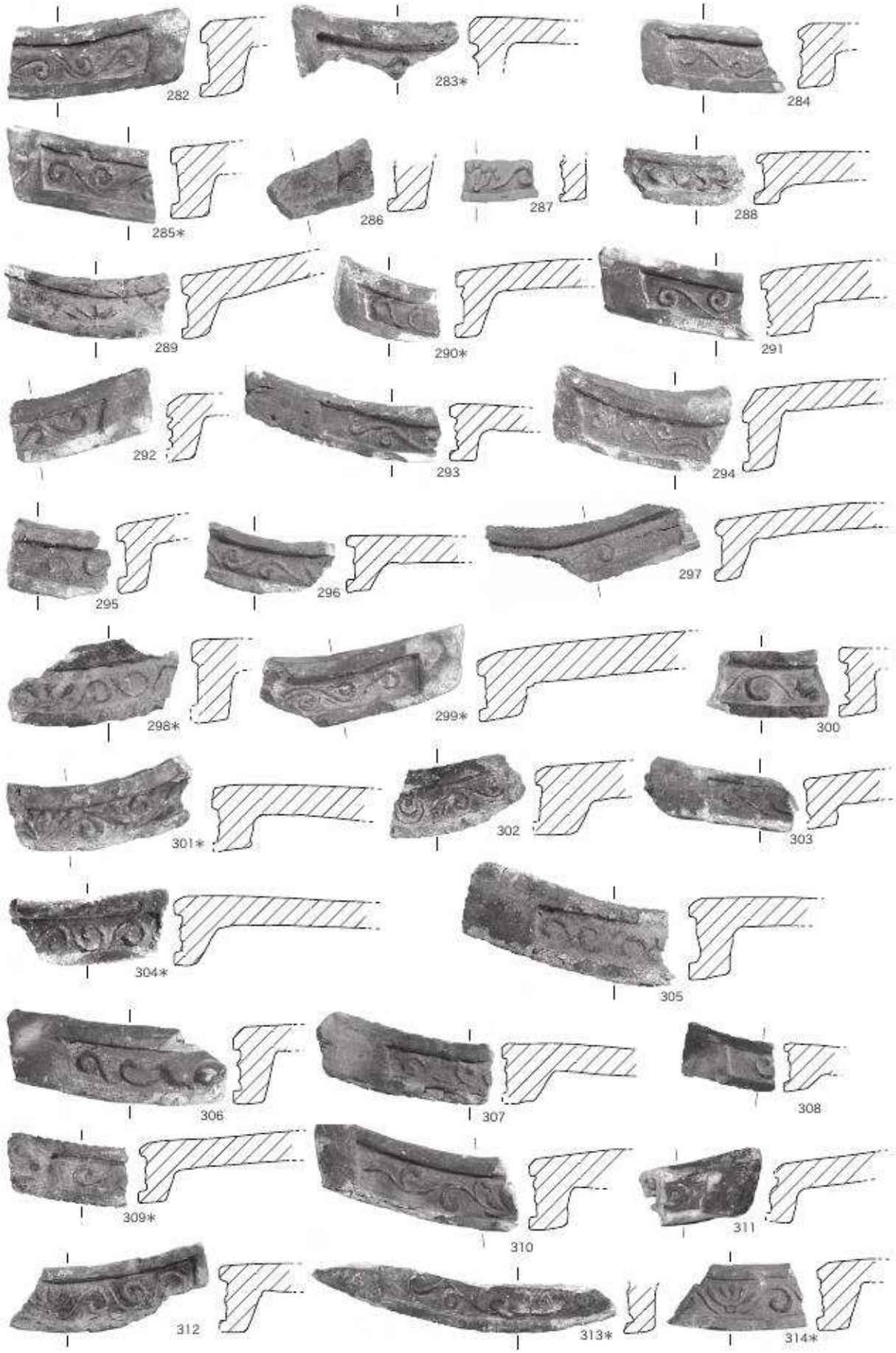
土壙35（211～228・230）・井戸13（229）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



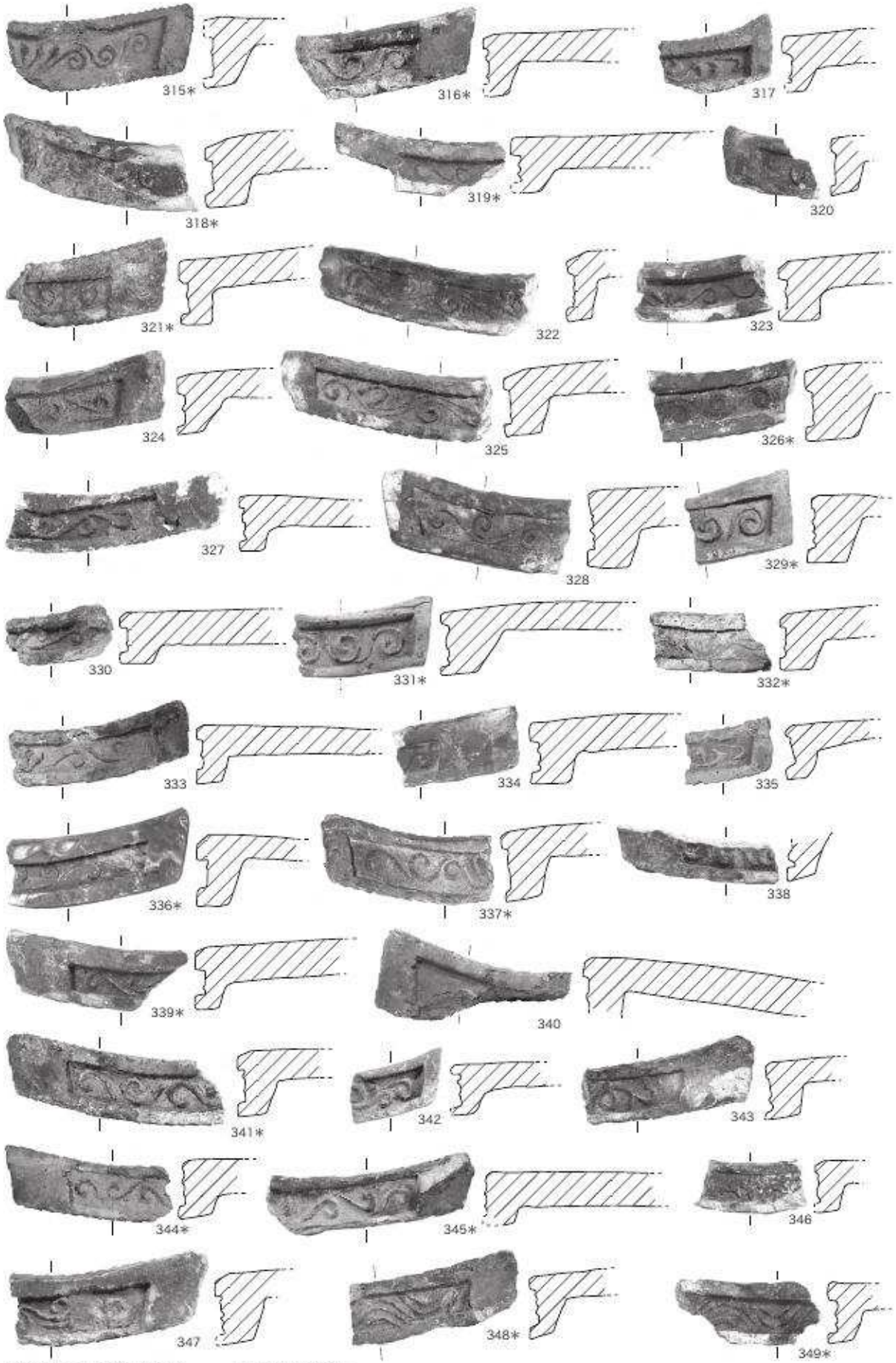
土壙 35（231 ～ 234・236 ～ 239・241・243・244・246 ～ 255）・井戸 6（235）・井戸 15（240）・土壙 20（242）・土壙 4（245）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



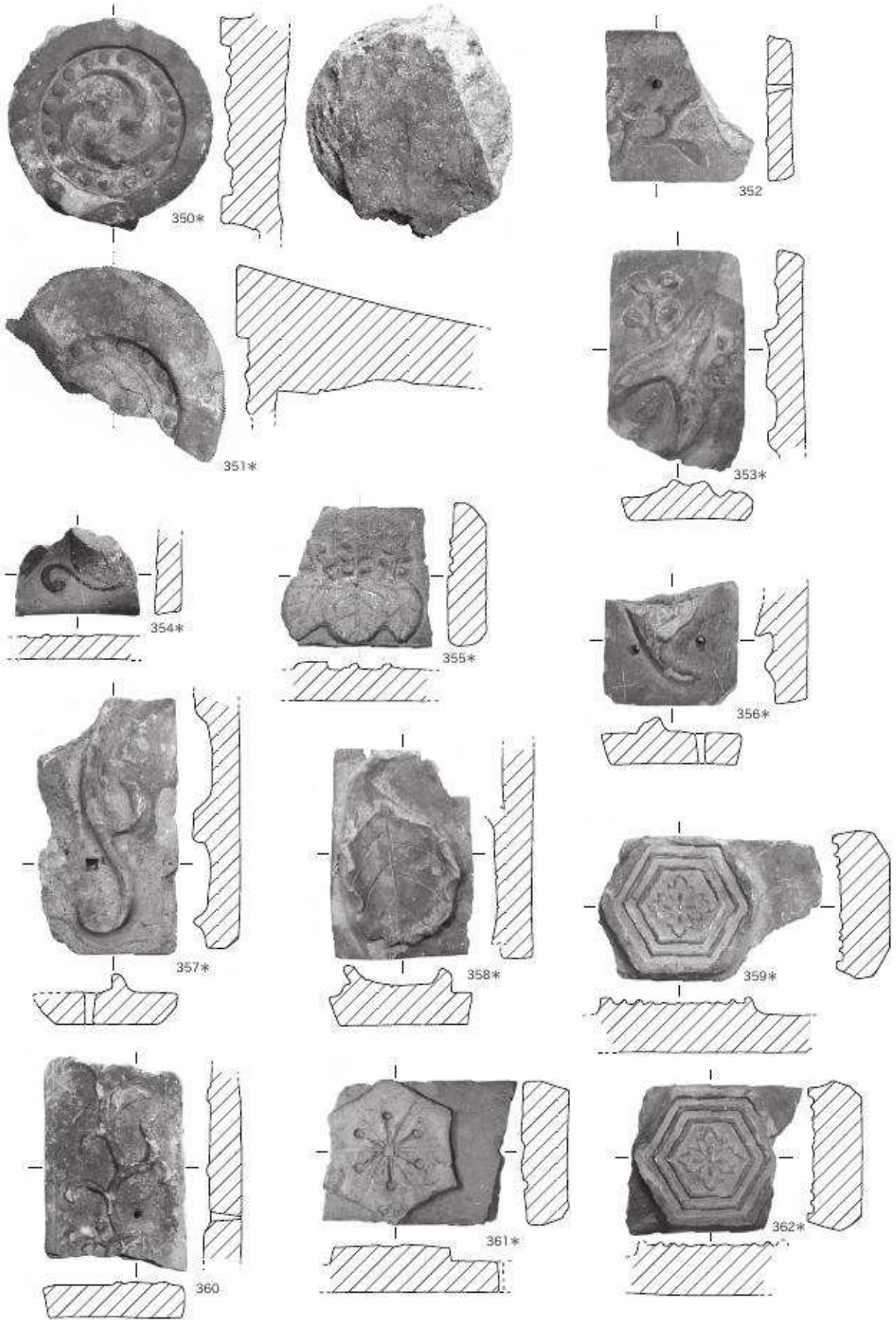
土壙 35（256 ～ 271・277・280・281）・攪壙（272）・土壙 4（273）・井戸 16（274・276）・土壙 19（275）・土壙 8（278）・精査中（279）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



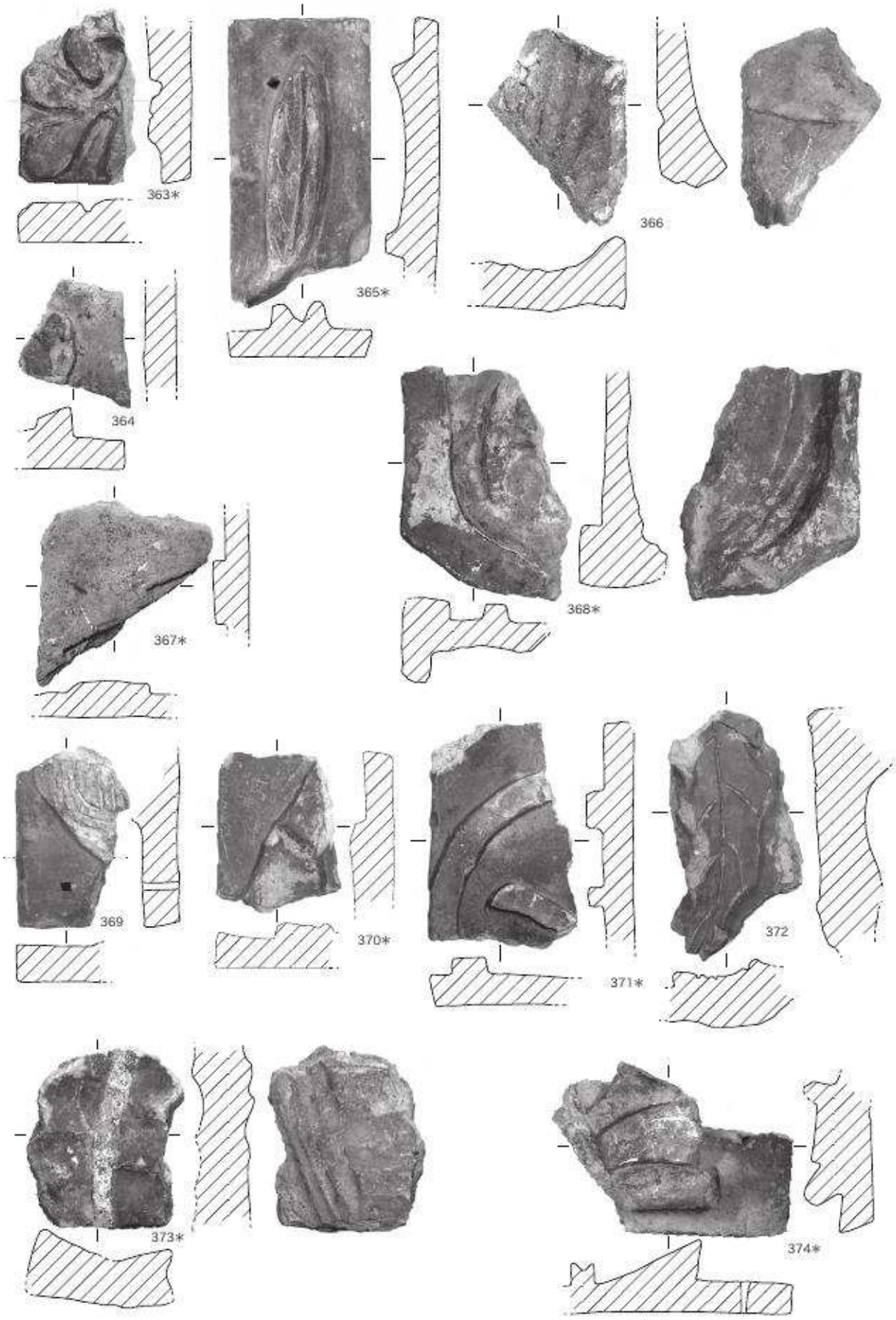
土壙 35（282・283・285・289・291 ～ 314）・土壙 20（284）・井戸 29（286）・井戸 6（287）・井戸 28（288）・精査中（290）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



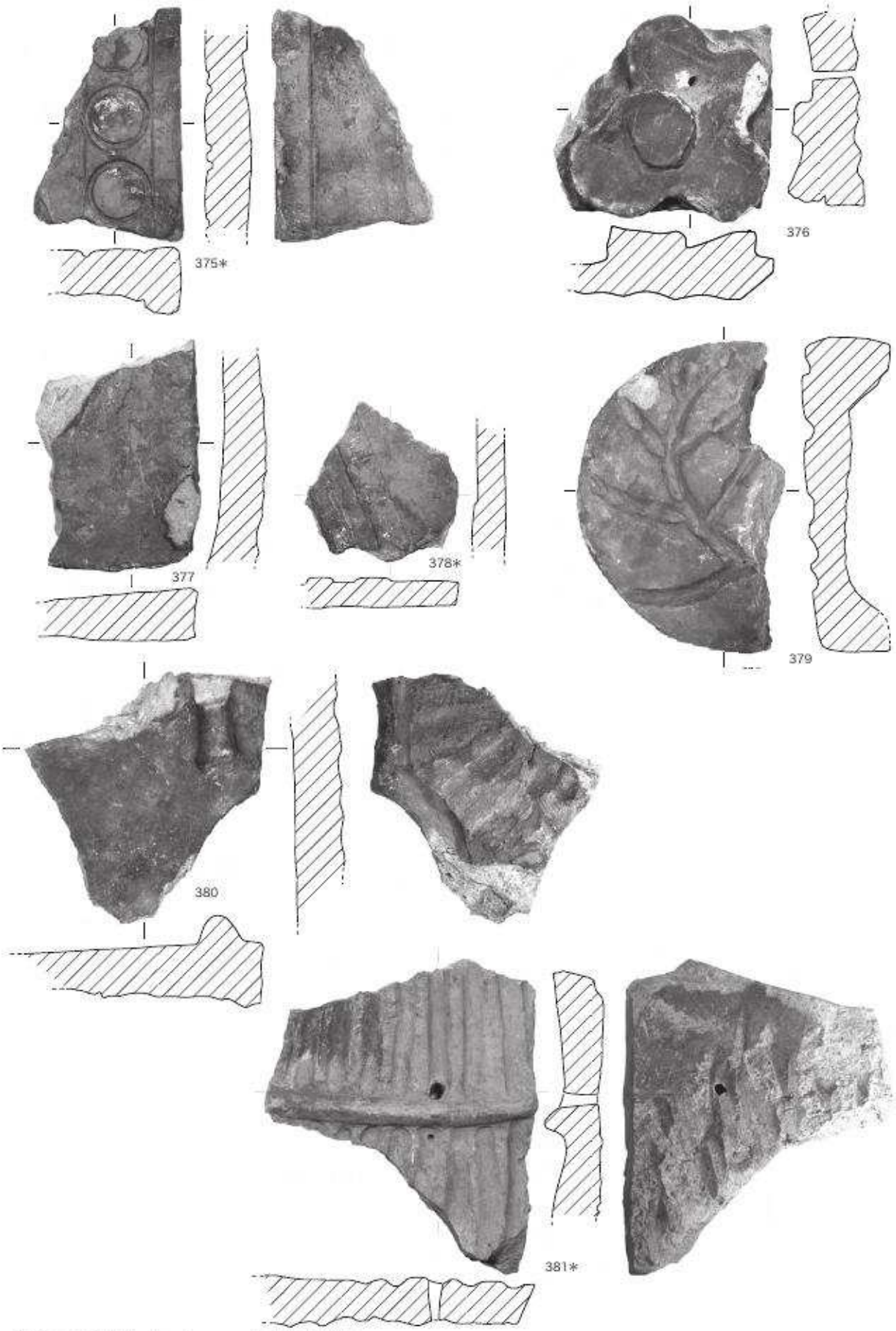
土壙 35 出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



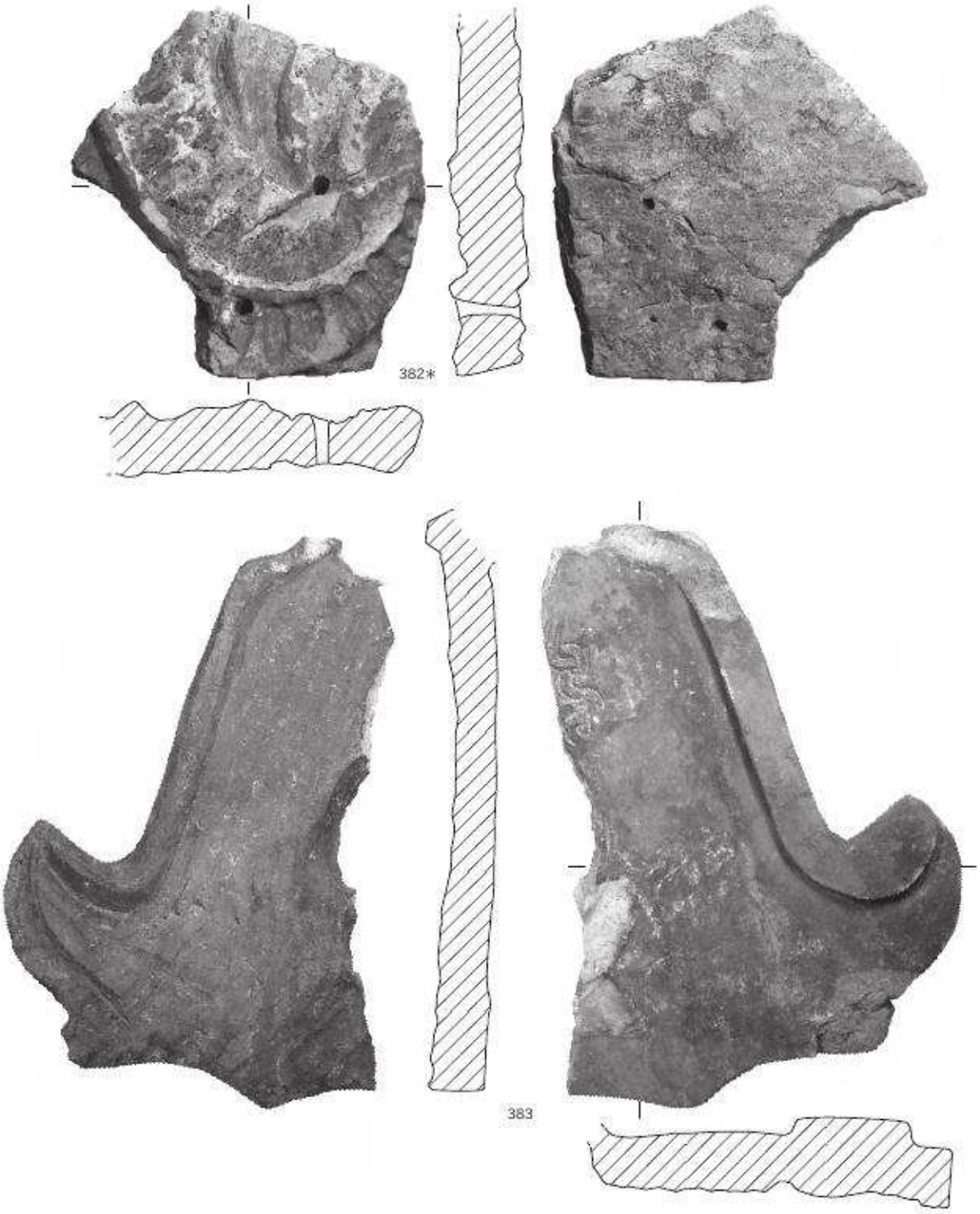
土壙35（350・351～362）・精査中（352）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



土壙35（363～365・367～374）・精査中（366）出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



土壙35出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存



土壙35出土遺物（1/4）　＊印は金箔残存

平安京左京北辺三坊六町
内膳町遺跡

発行日　2014年3月31日

編　集
発　行　古代文化調査会

住　所　〒658－0032　神戸市東灘区向洋町中1－4－125－1404
TEL（078）857－6368

印　刷　（有）京都編集工房
〒612－0868　京都市伏見区深草直道橋南1－524－24
TEL（075）643－6978